

「資料紹介」黒川家三代の蒐集に関する領収書

川見典久

はじめに

前号では、黒川コレクションの大部分を蒐集した二代幸七に宛てられた、羅振玉や内藤湖南、犬養木堂（毅）ら、大正から昭和前期の著名な学者、文化人からの書簡を紹介した^{〔1〕}。美術・考古資料をめぐる交流の様子が窺え、収藏品についても新たな知見が得られたが、コレクションの具体的な形成過程についてはなお不明の点が多く残った。そのため、引き続き研究所に残された購入時の領収書類の調査、整理をおこなったところ（図1）、複数の収藏品の購入時期が確定でき、三代にわたる蒐集の経緯も徐々に明らかになってきた。また、この種の資料はこれまで報告例があまりないと思われ、一館の収蔵に止まらず、古美術蒐集の歴史資料として意義があると考え、紹介することとした。資料の性格上、詳細な紹介は煩雑になるため、購入した日付・品物・支払い金額・購入先を表にまとめた。明治から昭和前期にかけての美術品蒐集の具体的な状況を考える資料となれば幸いである。

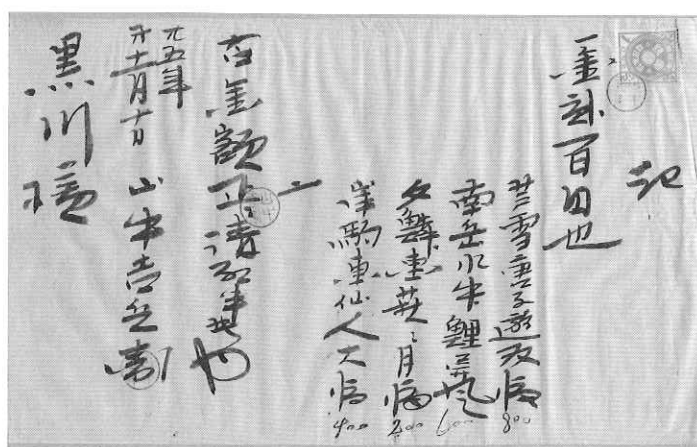


図1 明治25年11月10日 山中吉兵衛領収書（表1 No 7）

表1 黒川家の蒐集に関する領収書類

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
1	明治19年12月24日	応挙画軸三幅(竹ニ双鶏、四季花籠、松孔雀)	80.00	神崎和助
2	明治25年3月25日	豊彦秋景山水、完瑛搗衣山水、訥言枯芦ニ川セミ之幅、雪鼎美人マクリ	35.00	山中吉兵衛
3	明治25年4月30日	山陽四字額、文晁日月双幅、牙軸箱代、訥言嵐山、芳園雪中横物山水、金城花卉額、南岳美人小幅、雪鼎二枚折一双箱入	169.00	山中吉兵衛
4	明治25年9月	文晁柳蔭山水、応挙柳山水幅、抱一上人柿目白、治作茶箱、長寛吸物椀十人、訥言川蟬幅表具仕立手間牙軸箱共、来章鯉幅、同幅浅黄緞子牙軸付箱共、徹山画連経雀幅、碧山上人同作瓢幅、芳園山水横物中金欄上下緞子牙軸箱共仕立代、一鳳画雪中横物山水、光琳蒔絵火鉢、尚古斎唐物写、盛物籠【見積】	130.50	山中吉兵衛
5	明治25年9月9日	岸駒画砂子孔雀屏風一双、七宝三ツ揃紫壇箱入	191.40	山中吉兵衛
6	明治25年11月	ヒスイ玉壺、紫旦書彫卓、大樋焼狸置物、蕪村孤鹿幅、篤奥猿ヲジメ、梅逸花鳥絹本三幅対箱入、一恵那古曾関幅、文晁岩ニ猿幅、直賢花鳥軸、一鳳画柿鳥幅、文晁画水鳥双幅、小虎画花卉双幅、文鱗紅葉山水、祖仙猿表具手間切軸代共、木米画山水幅【見積】	375.50	山中吉兵衛
7	明治25年11月10日	芦雪唐子遊双幅、南岳水中鯉屏風、文鱗画萩二月幅、岸駒画仙人大幅	200.00	山中吉兵衛
8	明治25年12月	赤銅湯沸、景文横物山水、同表具代、芦雪双鯉幅、同表具代、均桓花生箱入、均桓花生紫旦代、東山時代卓、一鳳モウカリ横物山水、同表具代、文晁芦ニ鳥ノ双幅表具代箱共、支那靈石、生子三木花生、水晶花生箱入、芦雪牛幅、寿ブドウ香盆箱入、南岳鯉屏風仕立代箱共、祖仙牛幅【見積】	273.10	山中吉兵衛
9	明治25年12月3日	呉春画芙蓉五位鷺立幅、呉春果物小幅双幅	155.00	山中吉兵衛
10	明治25年12月28日	呉春山水幅、光琳火鉢	100.00	山中吉兵衛
11	明治26年1月31日	生子花生肩付壺桐外箱入	153.50	青木勝治郎
12	明治26年2月	桑火箸七ツ、呉春山水幅、舜拳雀幅、東山時代硯箱コイノ絵、桐本地文台、直賢山水、白玉犬書鎮、古銅花生、建窯焼花活、竹石不二額、文晁花鳥幅、芝山ウメ物タンス、抱一紅梅幅、素絢美人、四方口花生、旦平卓、古銅花生、象牙カニ、抱一花卉双幅、応挙柳鷺、訥言山水、柳里恭双幅、相阿彌山水横物、直賢山水表具箱共、祖仙牛表具手間箱代共【見積】	599.25	山中吉兵衛
13	明治26年2月6日	源倚芦雪双幅	126.00	山中吉兵衛
14	明治26年2月7日	森祖席之幅、文鱗蓮ニ蛙幅、若冲鶏幅	325.00	山中吉兵衛
15	明治26年2月12日	南岳山水双幅、応挙八枚折屏風、同梅ニ鶯壺軸、秋暉花鳥十二枚、錦常山花生、文鱗鷺横物	110.00	山中吉兵衛
16	明治26年2月18日	渡辺華山翁湖石乳狗図	380.00	青木勝治郎
17	明治26年3月25日	周峯幅代備トシテ	35.00	好本
18	(明治26年)3月31日	光琳観音絹本壺幅、探幽紙本蓮壺幅之代	69.50	伊達定二郎
19	明治26年4月	阪古四十枚、紫旦器芍、馬ノ絵煎茶碗五ツ、錫茶入、半竹茶合、竹ノキンズツ、紫泥水次、紫泥茶出シ、銀茶托五枚、木庵梅鳥幅、訥言嵐山大幅、瀬戸焼花入、義董山姥幅、桐火鉢一對、竹石山水幅、徹山巻物一ツ、其一画秋草大幅、豊彦松大幅、柳里恭山水幅、一鳳夏景山水、抱一牡丹大幅、廣延美人マクリ、竹田横物山水、文晁山水幅、南蘋松鶴幅、画人伝一部、南蘋海棠猫、山楽美人幅、九谷角鉢、籠手付花入、訥言山水表具箱代共、文晁花鳥表具仕立箱代共、(差引：小虎花卉双幅、芦雪牛幅、豊彦松大幅、応挙屏風片)【見積】	661.15	山中吉兵衛

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
20	明治26年4月9日	梅逸花鳥双幅、竹田岩ニ牡丹幅	310.00	山中吉兵衛
21	明治26年6月12日	謝蕪村画春塘午景横物	380.00	山中吉兵衛
22	明治26年6月17日	白玉三ツ揃箱入	475.00	山中吉兵衛
23	明治26年7月	徹山藤鮎マクリ一、蒔絵香盆、同手拭掛、蒔絵廣蓋二枚、光琳寿老人、留利井、青地香炉、光琳芥子幅、清暉楓瀧幅、竹田茄子幅、秋暉花鳥幅、白茶金襴切、ケサンーツ、象銀入菓子盆、保金小皿十枚、徹山不二マクリ、雪鼎鍾馗幅、奇斎吸物椀廿人前、素絢六歌仙額、白水盤一枚、黒無地卓、黒無地中卓、探幽齋三幅対、豊彦尉姥幅、乾山大根井、古銅鴨香炉、是真月蝶、応挙登鯉、応挙月鷹幅、檀山鮎幅、応挙柳鷺表具箱代共、里恭双幅表具上下仕替、額箱四ツ、南嶺松鷗上下仕替打直シ代【見積】	692.70	山中吉兵衛
24	明治26年7月13日	司馬江漢絹本横物大幅 但し水鳥ノ図	270.00	伊達定二郎
25	明治26年8月	徹山巻物仕立代桐箱入、是真浅草幅、同寒山十得、紫紐壺筋、紫白稜紐二、景文若松屏風一双、藤筵十疊敷、其一丹花三幅対二重箱入、正阿弥吹カラ入、梨子地香入、直賢美人、義董巻物二、何帛草花幅、柳里恭布袋、徹山不二額仕立代、秋暉花鳥表具仕立代、応挙瀧ノ表具仕立代、雪鼎鍾馗表具仕立箱共、(差引：均桓花生箱入、七宝香炉三ツ揃)【見積】	549.00	山中吉兵衛
26	明治26年8月2日	司馬江漢水鳥大横物	220.00	菅野平助
27	明治26年11月	尚古斎篋花入、呉春雪中山水、景文桃鹿幅、秋月画花鳥、宗達屏風一双四季竹花図、文麟四景山水双幅、青銅燈篋箱入、檀山鮎表具代、紫高知花入、抱一画月芒鶉幅、玉峰糸桜鳩幅、鉄作花入壺、抱一紅葉鹿幅、乾山秋草横物、光琳椿横物、応震吉野龍田山水双幅、一鳳虎表具代、大額仕立代、(差引：梅逸屏風一双、呉春山水大幅、客斎□ノ鶯、梨皮花活)【見積】	505.50	山中吉兵衛
28	明治26年12月	応挙孔雀大横物壺軸 但し極彩色	550.00	山中吉兵衛
29	明治26年12月	蒔絵反物盆、抱一中義家三幅対、蒔絵吸物椀廿人、其一椀画双幅、瀬戸コボシ箱入、探幽柳尾鳥幅、常信八景巻物、仁清水水仙横物、景文花鳥幅、堆朱硯箱、青貝硯箱、鶴具込吸椀十人、青備前香炉、探幽川蟬半切、抱一変狸ノ半切、秋月蓮鷺幅、タンス壺、光琳二枚物箱入、是真蝶表具代、芦雪源琦双幅表具代、何帛草花表具代、景文桃鹿表具代、秋月花鳥表具代、玉峰糸桜表具代、徹山不二額箱代、(差引：芦雪双幅、其一秋草大幅、介石山水幅、山陽四字額、筵壺幅)【見積】	263.60	山中吉兵衛
30	明治26年12月4日	徹山花鳥双幅、山本守礼美人、応挙梅林山水、伊川院花鳥双幅	243.00	山中吉兵衛
31	明治27年1月24日	白井直賢筆 豆ニ二鼠幅	33.00	山中吉兵衛
32	明治27年2月	何帛草花表具代、秋月花鳥表具、景文桃画表具代、光琳扇面二枚折一双、青貝小卓、備前文殊置物、時代兎蒔絵硯、時代蒔絵丸卓、探幽中弁天左右山水三幅対、雛小道具箱入、徹山フクサー一枚、仁清香炉、栄之美人、一蝶雪中山水、其一紅葉鳥、青地香炉箱入、応挙梅山水表具代、光琳椿直し、仁清菖蒲箱直し、応挙雀表具代、光琳観音箱直し、蒔絵食篋、元信花鳥双幅、追善分青貝香合、薩摩花活、素絢額箱代、(差引：抱一双幅、木庵梅鳥、直賢花鳥、秋暉マクリ)【見積】	537.30	山中吉兵衛

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
33	明治27年4月	備前獅子箱二重箱代、是真糸桜鶯、一鳳岩上猿幅、雛小道具三箱、光貞下絵堤重、蒔絵硯蓋、呉春若松山水、新交手塩皿廿人、硯水入二ツ代、抱一楓鹿表具幅、一鳳雪中横物表具代、廣延美人表具代、ランプ四本代、同二本入箱代、乾山菊表具代、呉春山水上等表具代、ゴマ竹掛物掛3つ、(差引:祖仙牛幅、呉春山水幅、一鳳双幅、一鳳虎幅、栄之美人幅、一蝶山水幅)【見積】	279.02	山中吉兵衛
34	明治27年4月11日	円山応挙画中亀左右鶴三幅対一箱、乾山筆葵絵二枚折、国真美人扇面十二枚	610.00	山中吉兵衛
35	明治27年7月	生子花活、平戸石二、祖仙孔雀幅、染付走馬花活、青貝卓、応挙鏡餅幅、探幽花鳥仕立代、応挙粟と鶴老幅、蒔絵雛道具、抱一正月掛抱一観音幅、住山好ランプ二本箱入、石笠二ツ、(差引:探幽三幅対)【見積】	445.10	山中吉兵衛
36	明治27年8月	鶯上人寸フトン廿枚、祖仙虎表具上下直し、乾山二枚折箱、応挙鯉表具箱代共、直賢鼠表具箱代共、伊川花鳥双幅表具代、徹山花鳥双幅表具代【見積】	79.20	山中吉兵衛
37	明治27年12月	碧春苑山水小幅、万曆緞子壺枚、光琳六歌図火鉢壺個、一鳳柿二鳥幅表具打替、徹山双幅応挙鯉壺表具仕立代【見積】	219.90	山中吉兵衛
38	明治28年4月29日	梨地仮殿蒔絵急須、右品直し代、黒唐物俱利鳴軸盆	32.90	児島嘉助
39	明治28年5月	芳園鶯一軸、同緞子表具象牙軸代、応挙鼠一軸表具仕立代、遠山金欄中縁表切、芳園くつ二月中切一軸、芦雪瀧二白猿之ふく、呉春船二枚折片【見積】	71.82	山中吉兵衛
40	明治28年6月	応挙鶯之壺軸中切時代白茶金欄タン上下一文字風帯先分用ヒ仕立料、芦雪呉春双幅白茶金入緞子一文字金欄袋表装一寸象牙軸共仕立料、右桐やろう箱代、呉春雨中鶯之図壺軸惣花色唐緞子写一文字金欄仕立料、謝長庚桃源山水大横物上下唐緞子万曆切中切一文字風帯先分用ヒ仕立料、応挙孔雀大横物壺幅中時代紫桐鳳之別折切一文字風帯白茶金欄上下切先分用ヒ仕立料、同壺寸二分半象牙軸代、同嶋桐外に外箱共料、宗達四季屏風壺及外雀頭張うへ金物但し、今利香炉銀ホヤ別誂へ代【見積】	82.65	山中吉兵衛
41	明治45年5月24日	北宋拓聖教序壺帖	2500.00	油谷達(博文堂)
42	大正2年3月某日	明人尺牘冊、聖教序20冊製本	240.00	油谷博文堂
43	大正2年6月8日	古金貨幣及び円銭、古銭範、書画及び法帖	2600.00	油谷博文堂
44	大正3年2月24日	前節季分(ケス板クリ込代、御影御宅へ送品)、如意通し、ぬりともせり重30ニ台ふた共ニテ、仕切10個ぬり代とも、桐ケス板10個	130.00	三好弥次兵衛
45	大正3年7月8日	古金判13枚(品目記載あり)	1000.00	原田寅之助
46	大正8年7月30日	記載なし	1000.00	山中定次郎
47	大正9年12月12日	楢製御地蔵尊、刀額箱木綿真田紐付壺御取次、唐物枯木様天然松子壺、碧翡翠勾玉張金鈎付少付壺、瓏琥珀古□魚彫抱鈎少付壺、古帳鈴壺、北部古瑠璃大勾玉同紫玉七種緒紐付壺揃、唐物犀角蟹彫□付在銘小根付支那篋入、鎌倉時代朱塗□付香□桶仏器用壺、楢製天然木松子箱真田紐付壺御取次	92.00	加藤圓福堂
48	大正9年12月12日	銅磬枠箱入	85.00	加藤圓福堂
49	大正9年12月29日	古写経大観3部	130.00	博文堂合資会社
50	昭和2年5月30日	唐物紫檀大柵物壺【請求書】	400.00	上村豊造
51	昭和7年5月20日	中国貨幣14点、外国貨幣24点、紙幣類21点、他にマッチレット若干	395.00	亀島利哉
52	昭和7年5月27日	明治30年より大正8年まで新二十円金貨6枚など日本貨幣55点、外国貨幣76点、他に五十銭銀貨ヨリ以下五厘銅貨迄取合せ通貨額代	832.36	亀島利哉

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
53	昭和7年6月3日	日本貨幣152点、中国貨幣2点、外国貨幣4点、紙幣類2点、書籍類2点、他に一口取合せ品代	859.33	亀島利哉
54	昭和7年6月15日	甲子大黒小判金1枚、太閤一分金1枚、昭和5年二十円金貨1枚など日本貨幣18点、中国貨幣3点、外国貨幣34点	926.85	亀島利哉
55	昭和7年6月16日	慶長江戸座右極印小判金1枚、同京座美品小判金1枚など日本貨幣7点	218.50	亀島利哉
56	昭和7年6月17日	正徳挺銀1本、慶長京座小判1枚、二ツ宝挺銀1本など日本貨幣19点、外国貨幣5点、『貨幣沿革図録』1冊、書入紙代	674.33	亀島利哉
57	昭和7年6月18日	皇朝十二銭1組、外国貨幣25点	540.00	亀島利哉
58	昭和7年6月28日	慶長大判1枚、黄南京花瓶1個	1500.00	塩田みつ
59	昭和7年7月1日	天正大判1個、唐画1冊、唐画2巻	1750.00	塩田みつ
60	昭和7年7月1日	日本貨幣9点、中国貨幣1点、外国貨幣9点、他に古銭種々取合せ一口	348.00	亀島利哉
61	昭和7年7月3日	慶長最初形小判1枚、元禄挺銀1本など日本貨幣3点、絵銭類13点	243.00	亀島利哉
62	昭和7年7月5日	明治43年十円金貨1など日本貨幣3点、外国貨幣76点、大蔵省本1	655.00	亀島利哉
63	昭和7年7月14日	寛永ト・逆ト種銭2枚、中国貨幣4点	270.00	亀島利哉
64	昭和7年7月30日	慶長初期挺銀1本など日本貨幣19点、外国貨幣4点	451.00	亀島利哉
65	昭和7年8月16日	明治13年二十銭銀貨正品1枚、加越能五百種銭1枚など日本貨幣119点、外国貨幣25点、絵銭類4点	1022.00	亀島利哉
66	昭和7年8月30日	慶長江戸座小判1枚、慶長駿河座右打極印小判1枚、漆小判金二匁四分1枚、太閤一分金1枚など日本貨幣73点、外国貨幣20点、絵銭類27点、ただし日本貨幣のうち3点は岡田商店分、他に貨幣図入ナイフ3本	1074.50	亀島利哉
67	昭和7年9月12日	明治9年二十円金貨1枚、甲州四ツ桐一両判1枚、福字稲荷小判金1枚など日本貨幣52点、中国貨幣2点、外国貨幣31点、絵銭類4点、書籍類3点、他に寛永銭一口取合せ代	1164.00	亀島利哉
68	昭和7年9月17日	円歩金花押短キ手一枚など日本貨幣12点、外国貨幣7点、画銭多数取合せ代	780.00	亀島利哉
69	昭和7年9月26日	佐字小判一枚など日本貨幣7点、外国貨幣16点、絵銭類45点	565.00	亀島利哉
70	昭和7年10月1日	日本貨幣12点、中国貨幣3点、外国貨幣4点、絵銭類20点、書籍類5点	245.00	亀島利哉
71	昭和7年10月3日	画銭譜上下2冊、貨幣雑誌1号より昭和6年度中合本14冊代、日本貨幣8点、外国貨幣1点、画銭大小取合せ7枚	130.00	亀島利哉
72	昭和7年10月12日	日本貨幣23点、絵銭類15点、書籍類3点	175.50	亀島利哉
73	昭和7年10月22日	慶長駿河座手小判金2枚など日本貨幣18点、中国貨幣9点	286.30	亀島利哉
74	昭和7年11月8日	×極印蛭藻金三十七匁五分付1枚など日本貨幣11点、浅間小形銭1枚、書籍類5点	1226.30	亀島利哉
75	昭和7年11月17日	日本貨幣4点、絵銭類10点、書籍類1点	98.50	亀島利哉
76	昭和7年12月1日	寛永銭取合せ80枚程、他に日本貨幣5点、咸豊当百1枚、絵銭類63点、泉貨学研究会費昭和泉譜代昭和6・7・8年度即3ヶ年度会費	398.50	亀島利哉
77	昭和7年12月1日	佐字小判1枚、明治13年、甲州一匁1枚など日本貨幣14点、絵銭類6点	726.40	亀島利哉
78	昭和7年12月17日	新大判1枚、小田原小判金1枚など日本貨幣41点、中国貨幣6点、外国貨幣1点、絵銭類1点	910.80	亀島利哉

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
79	昭和7年12月21日	乾字大吉小判金1枚、天津天宝印子形金量日九匁六分八厘1枚、深草出土貞観8枚など日本貨幣17点、中国貨幣1点、外国貨幣3点	297.70	亀島利哉
80	昭和7年12月31日	日本貨幣32点、絵銭類71点、書籍類5点、他に隆平永宝鉄瓶敷一	212.00	亀島利哉
81	昭和8年1月12日	新大判献上手恒字吉極印1枚など日本貨幣9点、絵銭類17点、『朝鮮画銭誌』1冊、他に岷江木彫子供に乳を与える図根付竹に梅蝙蝠図銀緒ノ付	414.50	亀島利哉
82	昭和8年1月18日	日本龍ノ口題目正偽交り其他并に支那大錢画銭取合せ計23枚、新渡銭取合せ21枚、兩本一分金1枚、南領重文長年大宝1枚、是真模墨根付時代桜皮提物	285.00	亀島利哉
83	昭和8年1月26日	太閤二分判金代など日本貨幣44点、絵銭類87点、他に小西家人札古銭1口代、根付大小取合せ計8点代	2645.00	亀島利哉
84	昭和8年1月30日	蛭藻金1本・大磯小判金1枚など日本貨幣11点、画銭取合せ4枚、外国銭拓本代	624.00	亀島利哉
85	昭和8年2月10日	日本貨幣25点、昭和7年度貨幣雑誌12冊合本代、青琅玕葉玉代	940.00	亀島利哉
86	昭和8年2月18日	日本貨幣17点、朝鮮十文、乾元道宝小形鉄銭1枚、絵銭類23点、書籍類3点、井口氏へ古銭箱蓋台6組	193.00	亀島利哉
87	昭和8年3月25日	日本貨幣26点、中国貨幣2点、画銭真偽交り25枚、書籍類2点、他に新旧一分銀4個及小玉若干并に古銭入帙付共代、皇朝十二品1組代、鉄鑄2枚、戎大黒図鑄1、皮鑄2	811.00	亀島利哉
88	昭和8年5月4日	宝永母銭1枚、五兩判小字1枚など日本貨幣8点、絵銭類5点	347.00	亀島利哉
89	昭和8年6月25日	元禄京座小判1枚、明治13年二円金貨1枚など日本貨幣6点、中国貨幣8点、絵銭類9点	1296.50	亀島利哉
90	昭和8年6月28日	明治13年五円金貨、元禄京座小判など日本貨幣12点、絵銭類1点	1613.00	亀島利哉
91	昭和8年7月3日	元禄・三ツ玉・享保以下両面小玉取合せ8、中国貨幣12点(うち9点は安田氏分)、絵銭類2点	362.00	亀島利哉
92	昭和8年8月19日	至正之宝背壹銭1枚など中国貨幣6点(安田氏分)	227.00	亀島利哉
93	昭和8年9月16日	大正7年十銭銀貨1枚、二ツ宝異挺銀1本、三ツ宝挺銀1本、中国貨幣8点、絵銭類4点	990.50	亀島利哉
94	昭和8年12月14日	日本貨幣14点、外国貨幣4点、絵銭類13点、井口紐代	327.10	亀島利哉
95	昭和8年12月28日	日本貨幣11点、中国貨幣2点、外国貨幣2点、絵銭類8点	292.50	亀島利哉
96	昭和9年1月9日	支那銭取合せ10品(安田氏分)、饒益取合せ2品、絵銭類11点、昭和9年度貨幣合本代、昭和10年度泉貨学会費代	610.00	亀島利哉
97	昭和9年1月24日	9点	620.00	小澤亀三郎
98	昭和9年1月25日	日本貨幣70点、漢興横文1枚など中国貨幣4点、米券取合せ48枚、絵銭類3点、昭和8年度貨幣合本1冊、秤台1個、船筆筒1個、泉貨学会昭和9年度会費取次ぎ代	414.00	亀島利哉
99	昭和9年2月1日	沖ノ島出四ツバネと同1枚など日本貨幣3点、紙幣類9点、書籍類1点、貨幣協会昭和8年12月ヨリ9年11月中会費	363.00	亀島利哉
100	昭和9年2月9日	前田惇氏旧蔵藩札一纏代、但内式百円也佐野亀島両氏ニ謝礼金トシテ相渡申候	3000.00	天野綱次郎
101	昭和9年2月13日	四ツ金丁銀1本、明治9年五十銭1個、子の字小判1枚、秋田笹一分1個、切銀1個	350.00	岡田商店
102	昭和9年2月27日	日本貨幣8点、中国貨幣1点、絵銭類24点、その他に一富士見鷹三茄子五位堂銭1(岡田商店分)	472.00	亀島利哉

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
103	昭和9年3月7日	東方学報京都第1冊～第4冊	12.50	小澤亀三郎
104	昭和9年3月15日	秦向獅子香炉他2点、漢砮、鉅鹿天月白緑碗、漢松石象嵌勺、漢砮魚6ヶ	550.00	小澤亀三郎
105	明治9年3月16日	隆平銭及支那銭取合せ代、永樂憲披銀銭(以上安田氏分)、宝化銭范、南録座挺銀、明治10年二十円金貨1、他に日本貨幣3点、中国貨幣2点、絵銭類10点	5190.00	亀島利哉
106	昭和9年3月20日	秦鏡、三代青銅爵、漢銀袖梟、唐鍍金帯金具、スキタイ金具、唐鍍金仏	1400.00	小澤亀三郎
107	昭和9年3月23日	書籍類4点、享保大判金交換差金代	67.50	亀島利哉
108	昭和9年4月9日	日本貨幣4点、弓削村米券木札1、貨幣誌ノ内藩札本1、絵銭類6点、他に安田氏分として支那銭取合せ28枚・浅間銭張輪1枚	1375.00	亀島利哉
109	昭和9年4月17日	唐瓦彩人物、鍍金勺、影青鉢	75.00	小澤亀三郎
110	昭和9年4月28日	日本貨幣35点、中国貨幣18点、外国貨幣8点、絵銭類18点、その他に安田氏分として支那銭取合せ40品・同駒銭取合せ30品、また醜酸(翻か)三宝院旧蔵三ツ又鈴1品など鈴8点	2826.70	亀島利哉
111	昭和9年5月11日	日本貨幣7点、中国貨幣5点(安田氏分)、柳川米券、書籍類4点、絵銭類8点、他に原田氏分として天保形菊桐一分元宝、稻荷銭素銅彫種、錫種、銅銭2、貝寄、古鈴2ツ、秀國共箱香炉	3573.00	亀島利哉
112	昭和9年5月22日	鄧爰金式十六匁五分、中国貨幣14点(安田氏分)、大宝通宝箱入代、書籍類2点、鉄鈴取合せ四十余個	1059.50	亀島利哉
113	昭和9年5月27日	大泉二千珍品1枚(安田氏分)、天聖元宝彫クズシ1枚、兩本一分金1枚、外国貨幣2点、絵銭類5点	396.50	亀島利哉
114	昭和9年5月30日	三代鳥地紋大爵、同絵地紋爵、同青銅刀、秦四山鏡、漢燕鳳鏡	655.00	小澤亀三郎
115	昭和9年6月6日	延喜通宝鑄放大形銅銭など日本貨幣9点、連足布1、東周空首布1、天策符宝1など中国貨幣10点(安田氏分)、印度金貨1点、絵銭類5点、書籍類2点	1894.00	亀島利哉
116	昭和9年6月15日	菊雛女院大判金1、南銀一兩判1、南録一兩判1など日本貨幣14点、中国貨幣2点、外国貨幣4点、絵銭類9点、他に発掘硝子玉2個	1000.00	亀島利哉
117	昭和9年6月23日	宮本武蔵自作柄、同鉄海鼠透鏝、同作素銅鍬形鑄、平田彦三作耳覆輪銅鏝、初代吾吾牛掘鉄鏝	1500.00	長崎伊太郎
118	昭和9年7月14日	戸筐小判金一など日本貨幣6点、中国貨幣3点(安田氏分)、絵銭類5点、書籍類2点、ただし日本貨幣1点は岡田商店分、他に鍍金鈴1点	1172.00	亀島利哉
119	昭和9年8月21日	日本貨幣2点、分布古布1個、漢興横文異1枚など中国貨幣9点、紙幣類2点、絵銭類5点	487.00	亀島利哉
120	昭和9年9月9日	古圓法四白銭、古圓法共屯赤金小字、文信など中国貨幣32点	600.00	亀島利哉
121	昭和9年9月14日	唐銀杯	400.00	小澤亀三郎
122	昭和9年10月9日	節墨刀など中国貨幣15点(安田氏分)、三ツ刃和銅背旋辺アリなど皇朝銭9点、外国金貨取合せ6枚、井口氏箱代取合せ分	2099.30	亀島利哉
123	昭和9年10月17日	沖ノ島出和同長冠鉄鑄2、同和同取合せ4、同万年厚肉及土中出添2、同中様神功1、同斜功厚肉交り2、湯浅出中様神功2、井手出隆平2、湊川出承和2、深草出長年2など皇朝銭21点、旗一分美品1枚、支那銭各種取合せ19品(安田氏分)、六字刀美品1本、紙幣類4点、絵銭類2点	1186.00	亀島利哉
124	昭和9年10月26日	沈周林間高士図幅・帯鈎6個	1000.00	博文堂

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
125	昭和9年10月26日	周青銅車軸、25日持参の8種、砵魚2ヶ	633.00	小澤亀三郎
126	昭和9年11月26日	支那銭取合せ20品(安田氏分)、隆平大字大様一枚など日本貨幣8点、中国貨幣3点、書籍類1点、他に発掘鍍金鈴2個、昭和10年度賛助会員東洋貨幣協会会費	1486.00	亀島利哉
127	昭和9年12月25日	鐸幣大小取合せ18個、磬幣取合せ11個、虫貨取合せ14個、支那銭取合せ10品(安田氏分)、唐鎔通宝切銭、古銭家番附取合せ代、薇松泉会雑誌取合せ代、紙幣類5点、書籍類2点	772.50	亀島利哉
128	昭和10年1月15日	木堂先生扇面八開、銅器鼎	700.00	博文堂
129	昭和10年1月25日	支那銭取合せ9品代(安田氏分)、旗五分銅貨1品代、黄金仏代備前西大寺観世音尊影十八金目方十七匁二分アリ	623.00	亀島利哉
130	昭和10年1月29日	乾祐元宝など4点(安田氏分)、慶長挺銀1本、慶長見本小玉1個、弘前切銀1個など日本貨幣5点、五字刀異品1本、六条銭1枚、素銅大黒桐背篆書様文字長方形1個、造幣寮納入領収書原紙25枚	649.00	亀島利哉
131	昭和10年2月3日	刀幣取合せ8本空首布2種(安田氏分)、慶長銀銭1枚など日本貨幣3点、絵銭類5点、他に瓢中ニ鈴入分1個	481.00	亀島利哉
132	(昭和10年)2月11日	唐葡萄紋寸鏡、周青銅地紋双鈴、三代魚小鈴、唐銀トキン木瓜香合、唐六稜小鏡二ヶ、唐ブドウ方鏡、唐櫛3ヶ、スキタイ壁(壁か)、空首布、楷幣(各龍頭幣)、唐銀トキン杯【見積】	866.00	小澤亀三郎
133	昭和10年2月14日	二月切	1524.00	小澤亀三郎
134	昭和10年2月14日	保字五兩判大吉1枚など日本貨幣10点、朝鮮鷲図二十圓試鑄銅幣1枚、紙幣類23点、絵銭類5点、書籍類3点、他に古銭会雑誌種々取合せ代、昭和9年10月号并に昭和10年度中朝鮮古銭会費代	992.20	亀島利哉
135	昭和10年2月22日	銅器並字鼎	700.00	博文堂
136	昭和10年2月22日	小字古和同1枚、狭平寛平1枚、建中通宝1枚など中国貨幣19点、絵銭類9点	300.00	亀島利哉
137	昭和10年3月6日	書籍5種及運賃	80.66	博文堂
138	昭和10年3月13日	朝鮮開元2種・皇宋鉄真篆2種・元符通宝鉄1種計5枚(安田氏分)、大黒福位小判金2枚、古常平取合せ10枚、外国貨幣1枚、紙幣類13点、絵銭類4点、鉄鈴1個	377.00	亀島利哉
139	昭和10年4月5日	安田氏分中国貨幣6点、絵銭類57点、書籍類9点	1119.80	亀島利哉
140	昭和10年4月6日	書籍2種代	32.60	博文堂
141	昭和10年4月12日	亀田(野代)切銀1個など日本貨幣5点、外国貨幣3点、絵銭類8点	463.00	亀島利哉
142	昭和10年4月16日	董源筆寒林重汀図	8000.00	博文堂
143	昭和10年4月24日	阜昌重宝折二真書美品1枚など中国貨幣8点(安田氏分)、天啓通宝背十及星アリ1枚、絵銭類4点	270.00	亀島利哉
144	昭和10年5月2日	慶長鰐口1個、秦権(分銅)1個、藤原鏡1面、櫻三韓、□読東国、饒益、羅坪1枚、龍馬2枚、土銭2枚、唐国篆書小銭1枚、咸平島銭、免犬、天下太平日本銭、山頭景德、絵銭類3点	337.00	亀島利哉
145	昭和10年5月10日	項孔彰筆梧陰釣舟画軸	400.00	博文堂
146	昭和10年5月11日	鉅鹿瓶、古銅銅印	1885.00	小澤亀三郎
147	昭和10年5月13日	寛永水戸ト彫種1枚など日本貨幣10点、絵銭類5点	567.00	亀島利哉
148	昭和10年6月3日	日本貨幣8点、泰和重宝大形異書1枚(安田氏分)、絵銭類12点、北米合衆国古銭大会記念本1冊	218.00	亀島利哉
149	昭和10年6月6日	古銭拓本代	10.00	博文堂
150	昭和10年6月6日	董源筆寒林重汀図	10000.00	博文堂

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
151	昭和10年6月6日	西村碩園先生筆唐詩十五首小屏風壹双	500.00	博文堂
152	昭和10年6月20日	ビルマ大形銅貨1枚、紙幣類3点、絵銭類16点、他に糸印取合せ20個、井口氏分箱代	590.20	亀島利哉
153	昭和10年7月23日	福寿銀判1枚など日本貨幣6点、安田氏分中国貨幣7点、外国貨幣1点、絵銭類2点、書籍類1点	678.70	亀島利哉
154	昭和10年8月26日	慶長江戸座大吉小判1枚、長年鉄鑄1枚、離石布大形1枚(安田氏分)、絵銭類3点、井口氏分	503.50	亀島利哉
155	昭和10年8月29日	大川逞一作 二科出品 横臥裸婦	350.00	花房静也(大阪画廊)
156	昭和10年9月26日	宝字切銀、栄字切銀、草文十二面大黒挺銀1本、銀和同開珎など日本貨幣13点、中国貨幣15点、紙幣類16点、絵銭類3点、他に象鈕糸印、支那銭取合せ代(安田氏分)	1391.00	亀島利哉
157	昭和10年10月14日	日本貨幣4点、中国貨幣7点、絵銭類29点、他に安田氏支那銭計11枚、大師子鈕糸印1個		亀島利哉
158	昭和10年10月16日	支那銭取合せ11枚・明治31年試鑄一銭1枚・明治42年試鑄五厘1枚(以上、安田氏分)、日本貨幣2点、中国貨幣18点、外国貨幣2点、絵銭類28点、他に大師子鈕糸印1個、	1787.70	亀島利哉
159	昭和10年10月29日	饒益神宝左神、明治30年旧形五円金貨など日本貨幣8点、大東三銭鑄放銅種、紙幣類2点、和同開珎錢范表裏、鉄製分銅形両替看板大黒天図像	1415.00	亀島利哉
160	昭和10年11月4日	鈴2個代(勝山氏分)、流金貝貨6種・明治試鑄一銭銅貨2種(安田氏分)、巨字打製永楽銀錢	1260.00	亀島利哉
161	昭和10年12月10日	万年横点大潤縁1枚、富寿示神1枚、饒益青錆分1枚など日本貨幣19点、その他3点(以上入札落札品)、古和同銅錢、奇書和同など日本貨幣30点、他に加茂剣扣帳(今城氏分)、貨幣会費昭和11年12月ヨリ昭和12年11月マデ、大判写真54枚代、井口氏鏡箱代張代共	2190.20	亀島利哉
162	昭和10年12月23日	明治14年五円金貨1枚など日本貨幣3点、安田氏分中国貨幣22点、紙幣類12点、絵銭類7点、書籍類2点、他に昭和11年度会費東洋貨幣協会賛助、昭和11年度朝鮮古銭会費	1137.00	亀島利哉
163	昭和10年12月28日	日本貨幣4点、絵銭類8点、他に隆平永宝50枚余繩差俣出土品大形等交り岐阜県本巣郡根尾村字神所ヨリ出土、尼ヶ崎平野郷藩木計2組、藩印帖1冊(中島茂吉氏分)	940.00	亀島利哉
164	昭和11年某月某日	1月25日分：円歩金桐極印打1枚、モチ貨泉1枚、堺元和札1枚など紙幣類10点、書籍類4点、昭和11年度泉貨学会費／3月3日分：離石布・政和鉄銭種(安田氏分)、日本貨幣2点、外国貨幣2点、紙幣類1点、絵銭類4点／明治9年金貨一揃ひ計5枚など日本貨幣9点、開元通宝銀錢1枚(安田氏分)、紙幣類1点、造幣局大観全冊2部代(No165と関連)	—	亀島利哉
165	昭和11年3月30日	円歩金花押短分桐極印打1枚、他(1月25日分・3月3日分)は細目みえず	3007.00	亀島利哉
166	昭和11年4月10日	開基勝宝神田家伝来、天正越座大判金量目二十三匁、桐一分金、筑前一分金、饒益神宝2枚(内1点ハ最良品)、四ツ跋和同沖ノ島出良品など日本貨幣30点、朝鮮鷲図白銅貨など外国貨幣32点、紙幣類51点、絵銭類10点、書籍類3点、他に袋入島銭水戸銭交り150品	2950.00	亀島利哉
167	昭和11年4月30日	正倉院御物模造紫檀木画小架	1700.00	吉田包春(山村清宛)
168	昭和11年5月12日	スペイン1801年チャーレス四世2リアル白金貨、保津川畔出土神功開宝取合せ16枚、奇書銀永楽打製1枚、紙幣類4点、安田氏分中国貨幣6点、他に福寿海山・仙台大形・元和通宝以上落札品其他両銭類等種々珍品美品の合計41品	1441.00	亀島利哉

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
169	昭和11年5月23日	都介野銀和銅1枚、文久当百母銭1枚、筑前天保末期1枚、甲州松木延金1枚、天正手永楽銀銭1枚など日本貨幣38点、元豊通宝彫種1枚など中国貨幣6点、外国貨幣1点、紙幣類18点、陶器銭取合せ62枚、絵銭類15点	3050.00	亀島利哉
170	昭和11年6月9日	臈化傳形統銭計2枚(安田氏分)、紀州銀永和5枚、五銖銭范1個、元和手寛永銀銭3枚、善光小判金1枚、南鐙一両銀判1枚、都介野出銀和銅1枚、他に5月23日分謝金、同井口氏分	915.00	亀島利哉
171	昭和11年6月27日	支那銭取合せ4品(安田氏分)、膽沢開珍鉄銭小形種、車輪と同美、他に中国貨幣8点、紙幣類9点、絵銭類2点、大阪為替会社箱、独逸陶器銭大小取合せ53点	637.00	亀島利哉
172	昭和11年9月2日	赤松小判金1枚、津島小判金1枚、筑前天保1枚、銀和同隸開1枚、鉄錆饒益1枚など日本貨幣19点、中国貨幣25点、紙幣類2点、書籍類10点、斬鬼大将赤銅彫種銭1枚、天保七福神1枚など絵銭類3点、他に安田氏分壮泉四十など4点、中島氏紙幣類14点、古銭雑誌全冊1組(佐野氏分)、井口氏箱代	3010.00	亀島利哉
173	昭和11年9月19日	土佐小判金1枚など日本貨幣15点、外国貨幣2点、絵銭類4点、他に大阪古泉会雑誌全冊其他各種雑誌取合代、甲賀氏旧蔵写真図画ハガキ等各種張交2冊	439.00	亀島利哉
174	昭和11年9月24日	藩札取合せ53枚代	500.00	亀島利哉
175	昭和11年10月2日	紙幣類5点、絵銭類1点、西洋貨幣独逸国入札目録4冊・和蘭4冊・独逸1冊、拓本帖計3冊代外二砂子銭6枚付(以上横山氏分)、支那・朝鮮銭6品・和国銭范箱書付分代、支那銭取合せ8品代(以上安田氏分)、井口箱代	611.90	亀島利哉
176	昭和11年11月2日	紙幣類96点、書籍類3点、他に朝鮮試鑄二十圓鍍金貨1枚、今城氏分富札及関係品取合せ代、安田氏分支那銭取合せ5枚代、貴志商店分支那西夏銅印代、井口氏箱代	1820.30	亀島利哉
177	昭和11年12月23日	保字雛挺銀、横山氏旧蔵和同開珎、中国貨幣12点、外国貨幣2点、紙幣類115点、絵銭類2点、安田氏分節墨刀2点・西清古鑑24冊、他に経瓦片取合せ18個、同大形1個、備中国分寺瓦1個	934.00	亀島利哉
178	昭和11年12月30日	秦青銅会獸飾蓋鼎、瓦当3枚	360.00	小澤亀三郎
179	昭和12年1月5日	藩札取合せ代275点、富札取合せ90枚、伊予松山米券5枚、発掘仏・塔取合せ代、三好氏造根付二重箱代	1945.50	亀島利哉
180	昭和12年1月23日	ロンドン支那美術展図録	45.00	山中商会
181	昭和12年1月30日	仙台領宝1枚、四ツ宝大黒小玉1個、貝貨44個、五銖1枚、支那銭取合せ10枚(安田氏分)、印度銅銭1枚、藩札49枚、昭和11年度貨幣合本代、昭和12年度泉貨学会費、神仏関係刷物画ハガキ取合せ代	1275.50	亀島利哉
182	昭和12年2月17日	貝貨取合せ15個、方孔無地刀1個、藩札類鑑全8冊、同全8冊(山田重雄氏エ贈呈分)、亀万代小判金1枚、六波羅小判金1枚など日本貨幣6点	726.50	亀島利哉
183	昭和12年2月21日	古鏡2面、外御勘定	2000.00	小澤亀三郎
184	昭和12年2月21日	支那銭取合せ16枚(安田氏分)、外国貨幣1点、紙幣類3点、絵銭類2点、書籍類6点、他に海津紙商店支払代	527.00	亀島利哉
185	昭和12年3月15日	泉門方二新布1枚など中国貨幣5点(安田氏分)、銀和同2点(うち1点は小川氏入札)、紙幣類273点、書籍類1点、他に井口氏分	1609.70	亀島利哉
186	昭和12年3月16日	漢猪角磚	100.00	小澤亀三郎
187	昭和12年3月29日	都介野銀和同1枚、沖ノ島禾和同1枚、同降和1枚、ワレツギ大形承和1枚、元和背十七銀銭1枚、永楽背廿七銀銭1枚など日本貨幣33点、ホルトガル1805年マリア一世金貨1枚、紙幣類185点	1507.00	亀島利哉

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
188	昭和12年4月22日	島銭・長崎銭など日本貨幣22点、絵銭類4点	157.50	亀島利哉
189	昭和12年4月24日	藩札210枚(1~35号に分類)	1957.00	亀島利哉
190	昭和12年5月7日	唐八稜鏡、漢画像鏡、木額2個	1350.00	小澤亀三郎
191	昭和12年5月12日	中国貨幣16点(安田氏分)、藩札取合せ58点、富札取合せ31点、他に造幣局員書入料謝札代バット50入添エル	766.00	亀島利哉
192	昭和12年5月31日	漢銅柄香炉、瓦当5ヶ	1100.00	小澤亀三郎
193	昭和12年6月9日	五位堂銭取合せ15枚、他に絵銭類3点、商品切手箱入取合せ530枚、天保銭76種、琉球天保24種、他に日本貨幣4点、井口箱代、支那銭25品代(安田氏分)	1942.50	亀島利哉
194	昭和12年7月	漢瓦佩外4点、外1点	1000.00	小澤亀三郎
195	昭和12年7月14日	富寿潤縁など日本貨幣6点、龍鳳正字当三、印度1モーフル金貨、スペインイサベラ女王金貨、露国ニ瑞典一角大形銅貨3個、外国銀銅貨取合せ120枚、藩札取合せ172枚、絵銭類5点、和蘭本1冊・伊太利本8冊本齣ノ謝札、和蘭本図載写真4組代、和蘭本本齣タイプライター4組札、右原紙4組代、岡山郷土会費十ヶ月分本年度相口、水原氏へ礼金、岡山郷土会寄附	2017.94	亀島利哉
196	昭和12年7月21日	二水隆平大字1枚など日本貨幣5点、壮泉四十1枚、絵銭類2点	1100.00	亀島利哉
197	(昭和12年)8月24日	紙幣類139点、大阪両替所印鑑帖、名塩藩札台紙帖、富札ニ関スル獵奇画報附、天保大字彫種、天保形背大黒駒、両銭取合せ20品、虎ノ尾安南元豊、無文銭、洪武背月星	1103.00	亀島利哉
198	昭和12年9月9日	日本貨幣6点、中国貨幣1点、外国貨幣4点、紙幣類2点、絵銭類28点	450.00	亀島利哉
199	昭和12年10月22日	□□断片平地□□3点	175.00	小澤亀三郎
200	昭和12年11月1日	桐本地丸入せり重ゲス板付追加分2杯、同ゲス板6枚富士絹張裂共、丸入ゲス板切込ミ11枚、桐春慶ぬり地大せり重5枚ふた台共壹組、同5杯ぬり代、同桐ゲス板3枚、同ゲス板3枚裂張代、宣徳金物角紐穴壹組、モミ棧蓋手棧付外箱付、桑梓面取硝子箱壹個、モミ黄柏梓戸錠付外箱、硝子箱台絹ベッチン張代、桐野郎ゲス板付香炉箱壹個	192.90	井口笠仙(指物師)
201	昭和12年11月6日	仙台通宝祝鑄宮銭覆輪松梅天神添え、大平通宝銀銭発掘品など安田氏分中国貨幣3点、紙幣類249点、絵銭類2点、書籍類3点、他に西印度諸島製本4冊(川勝氏分)、砂子紙第2回目の断貨代、造幣局及松坂屋行費用代、横山氏旧蔵日本及外国印紙1口、井口氏分、伊太利銭譜8冊書入謝札代	1730.60	亀島利哉
202	昭和12年11月19日	乾祐元宝行書1枚、同鉄銭の銅種1枚など中国貨幣7点、カンボチャ銀銭2枚、紙幣類46点、絵銭類5点、東洋貨幣協会昭和13年度会費	646.50	亀島利哉
203	昭和12年12月8日	寛永通宝不知品ノ内1枚、乾祐元宝細縁大字1枚など中国貨幣4点、安南貨幣14点、紙幣類12点、絵銭類26点	600.00	亀島利哉
204	昭和12年12月25日	西大寺付近出土皇朝銭9枚など日本貨幣11点、中国貨幣8点、絵銭類2点、書籍類4点、ただし中国貨幣のうち7点は安田氏分	314.50	亀島利哉
205	昭和13年1月22日	発掘精美品大形承和昌宝1枚、金永楽銭澤湯1枚、藩札取合せ14枚、貝千種帙代、	819.50	亀島利哉
206	昭和13年5月30日	モミ梓付ツメ戸伊太利銭譜箱壹	27.00	井口笠仙(指物師)
207	昭和13年10月28日	明治3年・同9年旧二十円2枚など日本貨幣60点、外国貨幣8点、紙幣類83点、他に東亜銭志18冊代、株式取引所米穀相場会社2冊、伊太利銭譜8冊入井口氏箱代、外国銭書入名刺紙二ツ切紙代、外国銭書入札代、寛永銭書入追加書入分共札代	3373.83	亀島利哉

No	日付	購入品	金額(円)	支払い先
208	昭和14年3月8日	古金124品、加州次字切銀大形1個小形1個計2個、藩札35枚、日本銀行旧紙幣6枚、朝鮮銀行紙幣1枚、日支事変軍用紙幣6枚、摂津多田鉸銀1個、外国旧金貨10枚	5594.00	亀島利哉
209	昭和14年6月27日	正徳弘小判1枚、淀君二分判金1枚、壮泉四十鉛銭1枚、米國廿弗金貨1枚など外国貨幣29点	750.00	亀島利哉
210	昭和14年7月5日	慶長江戸座小判金右印美品、同京座小判金東亜銭志十四原品、正徳佐字小判金筋神印、慶長挺銀東亜銭志十四原品など日本貨幣127点【見積】	4300.00	亀島利哉
211	昭和15年8月31日	三代砵、鈎兵	4205.00	浅野商店
212	昭和16年4月19日	竹斎、直斎、秋声、聖牛	335.00	関西画廊
213	昭和16年6月22日	上字判壺、駒壺両壺、寛永大字平永銀銭壺、額物類29品箱入壺	2850.00	亀島利哉
214	昭和16年7月31日	壺 青龍絵付	650.00	太田新次郎(播新)
215	昭和16年8月	坂口宗雲斎作山里花籠・古矢竹盛籠	234.00	生駒商店
216	昭和16年10月5日	銀座挺銀2本、小判類取合3枚、外国貨取合12枚、絵銭類取合22枚、外国貨銅貨附共2枚、古銭書取合4点	1620.00	亀島利哉
217	昭和16年10月31日	蛭藻判1枚、甲州大判1枚、土佐判1枚	1850.00	亀島利哉
218	昭和17年2月28日	東山大判其他取合せ18品、土佐太字当百、ジョージ三世試験銭、昭和泉譜全十冊、琉球太字桐極印、仙台座宮銭、卦文近代銭、貨幣合本1冊	1816.70	亀島利哉
219	昭和17年12月28日	鹿子木25号静物	1650.00	関西画廊
220	某年12月25日	梅逸四季屏風巻双	150.00	山中吉兵衛
221	某年3月25日	日根少年漁家風味幅、応挙水墨瀧幅、蕪村自画蟹蛙幅	27.00	山中吉兵衛
222	某年12月9日	極札1、松花堂捲り、菘翁画梅、半江山水軸、道八花生	1158.00	山中吉兵衛
223	某年3月	若沖呂洞賓、別口	50.00	青木勝治郎
224	某年2月26日	祖仙絹本鹿之図壺幅、徹山牛紙本壺幅	57.50	伊達定二郎
225	某年2月27日	三条公額	35.00	伊達定二郎
226	某年12月	宗達金地草花画屏風、景文松画屏風、岩駒双雀画屏風、金地扇面張集屏風【送り状】	—	杉本
227	某年8月	青琅玕曲玉3個	2500.00	升田□□
228	某年8月	白樺盆栽、岩南天上口ホトトギス、縄緑白交趾鉢代ほか	83.50	升田□□
229	某年6月20日	10点、飾小柄10点、海老小柄、長常富士幅、道八香炉、寄木花入、赤器局、紅長印材、桑筆筭	1301.00	正木善次郎
230	某年某日	端溪紫檀家入硯、梅彫小硯、象牙沈金彫筆、舶来義山盃5個、赤絵角形筆洗、桑時代杉筆筭、辰砂小花瓶、赤銅武者つヶ頭、鉄松鶴鏝、謙倉写透し鏝、素銅紋入鏝、謙倉地紋入扇、素銅飾刻入、鉄蛭巻、鉄七宝入羽子板小柄【請求書】	505.00	正木善次郎
231	某年4月23日	瓦当、年号鏡、輪花鏡、青貝長箱	1780.00	小澤亀三郎
232	某年8月26日	8月切勘定	115.00	小澤亀三郎
233	某年10月	西安出土漢瓦頭6ヶ、漢銘帯入獸首鏡、宋胡祿香合【見積】	600.00	小澤亀三郎

凡例

- ・書類の日付について、内容から推定したものについては()で示した。
- ・購入品目は書類に記載された名称に従ったが、年号および品数は漢数字を算用数字に改めた。また、貨幣は主なもののみ名称を掲げ、その他は「日本貨幣」「中国貨幣」「外国貨幣」「紙幣類」「絵銭類」「書籍類」に分類し、点数で示した。
- ・領収書以外の書類である場合には、「購入品」欄に【見積】などと記した。

黒川家三代の蒐集過程

以下、今回の調査を通して得られた情報をもとに、黒川家三代のコレクション形成過程について辿ってみたい。なお、文中の「No〇〇」は表1の領収書番号を、「目録〇〇〇〇」は「黒川古文化研究所収蔵品目録」の巻数と作品番号を指す。

(1) 初代幸七

初代黒川幸七（一八四三〜一九〇〇）は、京都府乙訓郡羽束師村志水（現京都市伏見区）に生まれ、文久年間（一八六一〜六三）に大阪で金銭両替を始めたと伝えられる²⁾。幕末から明治維新の混乱期にあつて、非凡な商才により創業からわずか十数年で一流両替商の地位を確立し、明治十一年（一八七八）には東区北久太郎町三丁目到店舗を構えた。

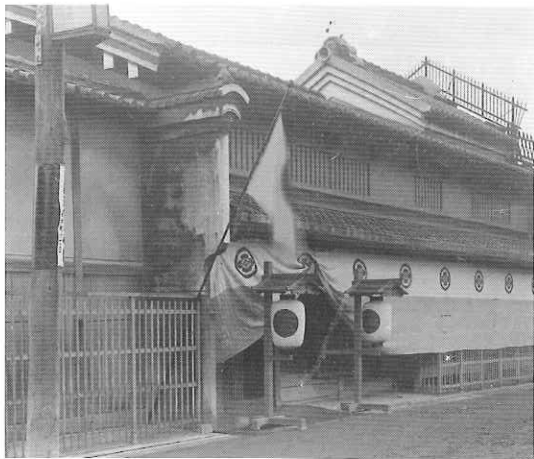


図2 大正9年頃の黒川商店

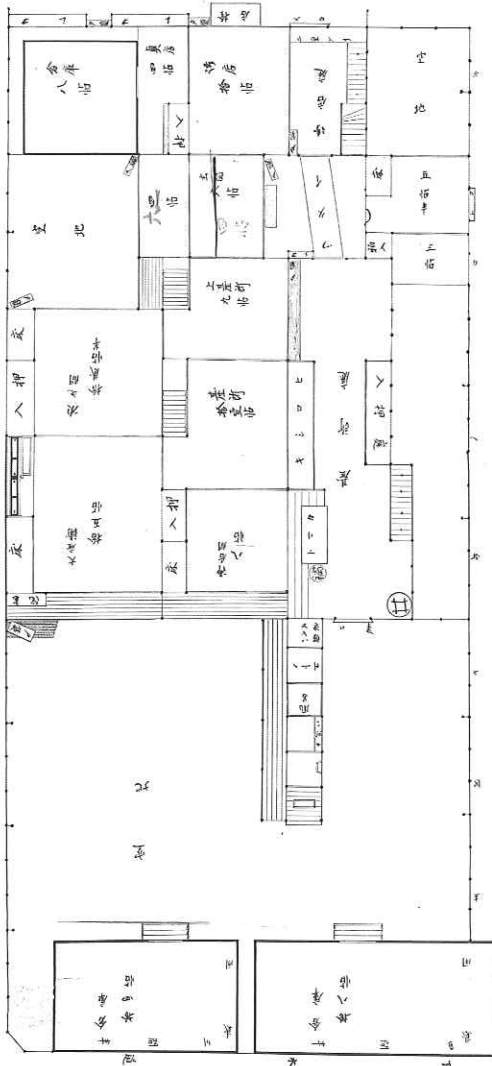


図3 黒川商店平面図

表1によると、特に明治二十五年から二十八年にかけて、大量の書画・骨董・什器類を集中的に買い入れている。購入先のほとんどは高麗橋の和漢書画商・山中吉兵衛³⁾で、黒川家の明治二十六年九月付「書画珍器点数帳」でも、注記される購入先の約六割を占めている⁴⁾。購入時に表装が行われる例も多数あり（No 32、40など）、収蔵品には共通する裂を用いた表装が確認できる。なかには返品している例もあるが（No 19、25などで「差引」とあるもの）、通常は持ち込まれた品物をほぼそのまま購入していたと考えられる。

短期間にこれほど多くの道具を買い入れた理由の一つと考えられるのが、明治二十九年、北久太郎町三丁目の三休橋筋西南角に土地二四四坪を購入して、豪壮な居宅兼店舗を新築したことである⁵⁾。外観より江戸時代からの伝統を受け継ぐ店舗であることが見て取れ（図2）、図面によると大座敷（十五畳）、次の間（十二畳半）、店間（八畳）、五畳半間

それぞれに床が付属している(図3)。座敷や床間の大きさにあわせ、季節、行事に応じた掛け軸、屏風、床飾りの設えが必要とされ、納入する道具商にもそれなりの品揃えが要求されたことと思われる。

初代購入の諸道具のうち、現在でも研究所収蔵品となっているのは近世絵画百点余りである。円山応挙、呉春をはじめとする円山四条派が最も多く、森派や文人画がこれに次ぐ内容となっており、大阪商家の嗜好が窺える。特に明治二十五年購入の「南岳水中鯉屏風」(No.7、目録五一五六)は、天神祭の際に飾られたと伝えられる。ただし、明治二十六年、青木勝治郎(暢春堂)より購入の「渡辺華山翁湖石乳狗図」(No.16、目録五一三六)や、同年伊達定二郎を通して菅野平助より買い入れた「司馬江漢水鳥大横物」(No.24・26、目録五一二二)など、山中商会以外の数少ない購入品のなかに、趣の異なる優れた作品があり注目される。

明治四年の姫路酒井家の売り立て以降、関西ではしばしば入札会が催されていたが、明治四十年に東京美術倶楽部が設立されると各地に波及した。特に大正五年、仙台伊達家の売り立てから昭和十年前後までは売り立て全盛期と言われ、数多くの「名品」が蒐集家の手に渡った。近年、これらの売り立て目録にも注目が集まっているが、黒川家の近世絵画コレクションは、その全盛期以前に形成されたという点でも、貴重な資料となっている。

(2) 二代幸七

明治三十三年、二代幸七(一八七〇—一九三八)は初代の死去にともない家督を相続したが、家業には関心が薄く、書画や造園、盆栽をはじめとする趣味に情熱を傾けた。明治末年には御影(現神戸市御影)に別荘(飛香館)を新築し、ここを舞台にした文人墨客との交友が、東洋の

古美術への興味を深める契機になった。

明治末から大正にかけては、清末民国初期の混乱により多数の美術品が流入してきた時期で、上野理一、嘉納治兵衛(白鶴美術館)、横河民輔、住友春翠(泉屋博古館)、阿部房次郎、山本悌二郎、藤井善助(藤井齊成会有鄰館)、守屋孝蔵などの諸氏により名だたる中国美術コレクションが形成されていった。

二代幸七も、京都帝国大学教授で東洋学の泰斗である内藤湖南や、辛亥革命後、京都に亡命中の羅振玉ら学者・文人との交流のなかで蒐集を行ったことが知られる。「北宋拓聖教序」(目録四一六〇)は、最も早い例として明治四十五年に博文堂の油谷達から購入しており(No.41)、大正二年(一九一三)の蘭亭会に出陳している。ただ、大正二年の「明人尺牘冊」(No.42、目録四一一四)以降、しばらく中国美術品購入の領収書は確認できず、再び博文堂からの購入が知られるのは昭和に入ってからで、九年(一九三四)に「沈周林間高士図幅」(No.124)、翌年に「董源筆寒林重汀図」(No.142・150、目録四一一、重要文化財)、「項孔彰筆梧陰釣舟画軸」(No.145、目録四一三三)などの中国書画を、鼎(青銅器)、帯鉤などとともに購入している。おそらく昭和七年頃からはじまった博文堂の原田悟朗との交流を機に、蒐集が進んだのであろう。またこの時期には、大阪の小澤亀三郎(溪苔堂)からも、鏡鑑をはじめとする中国考古遺物を多数購入しており、後掲表2の書簡によれば鑑定についてもさまざまな意見交換をしていたことがわかる(表2 No.2、3)。

最もまとまって伝わるのは貨幣の領収書であり、コレクション形成の様相を詳細に知ることができる。研究所では、古代から近代に至る中国・日本の貨幣、江戸時代の藩札・紙幣など約二万点を収蔵しており、日本銀行金融研究所貨幣博物館、三菱東京UFJ銀行貨幣資料館(旧東海銀

行貨幣資料館)、東京大学経済学部とともに、日本を代表する貨幣コレクションとなつてゐる。初代幸七が両替商から身を興したこともあつて、家業に関わる貨幣の蒐集には特に意を注いでおり、皇朝十二銭、古金銀などの日本貨幣をはじめ、中国貨幣、日中の紙幣類、外国貨幣、絵錢まで、幅広く資料を買い求めている。

当時は、大正七年に東京古銭協会を母体とする東洋貨幣協会が発足するなど、蒐集が活況を呈した時期であつた。同協会発行の『貨幣』誌には、会員として古美術蒐集でも知られる本山彦一、中村不折、山本悌二郎などの名も見える。同誌第一号(大正七年八月)には、原田寅之助の紹介により、賛助会員として黒川幸七の入会が記され、同第十二号(大正九年一月)では「東洋貨幣協会理事」となつてゐる。

大正二年に「古金貨幣及び円錢」、「古銭範」(No 43)を博文堂から、三年には「古金判十三枚」(No 45)を原田寅之助(元宝堂)から購入しているのが早い例であるが、以降、昭和七年まで購入資料が見当たらない。しかし、大阪の下間寅之助発行兼編集による『古銭』誌上では、所蔵の貨幣がたびたび紹介され、二代幸七の動向やコレクションの来歴を示す記事が散見される。例えば、下間寅之助「厳島に遊ぶの記」(『古銭』七一六、大正十二年)には、

(上略) 御影の黒川家も山田の三宅白水堂及羅振玉氏及吉田凍水軒の旧蔵品が全部集まつてある。殊に古金銀は当地某大家の旧蔵品であるから古金銀は他に見る事の出来ない珍品があると某氏は常に私に話して居る。(下略)

とあり、大正時代における蒐集が、三宅白水堂、羅振玉、吉田凍水軒のコレクション及び「当地某大家」の古金銀を基礎に成立していることがわかる。また、

廿三日午後一時より兵庫御影の黒川氏別邸に於て同家の古銭古金銀を東京の田中藤井三上の三氏並に当地の亀島原田下間の諸氏等に鑑賞せしめられたり。尚当日黒川氏より紀念の為め奈良県鹿野園発見の青錆和銅開珍錢を一個宛前記の諸氏に贈呈せられし由。

(『古銭』二一六、大正七年)

と、大正七年五月、御影の別邸(飛香館)に東京の田中啓文、藤井栄三郎、三上香哉、大阪の亀島俊哉、原田寅之助、下間寅之助ら著名な蒐集家を招いて所蔵の古銭古金銀を鑑賞に供し、記念として鹿野苑(現奈良市鹿野園町)出土の和同開珎(目録二二一五五〜七三、六四五〜七九四)を一枚ずつ贈呈したとあり、交流の一端が窺える。¹²⁾しかし、大阪の蒐集家を紹介する下間寅之助「大阪の古泉界」(『貨幣』七二、大正十四年)には、

○黒川飛香館 我國の古金銀蒐集家の第一人者なりと世評あり。古錢も又多し。伊勢三宅白水堂旧蔵品全部を買収し、其他所々に散在せる品も買収せし故、珍品少なからず。然れ共近來趣味を他に転ぜし為め展観を許さず。公開方申込むべし。

と、大正十四年頃には「趣味を他に転」じたとあり、一時貨幣蒐集から遠ざかった可能性もある。

昭和七年以降の貨幣関係領収書は、ほとんどが亀島利哉からの購入分である。一ヶ月間に二度三度と購入があることも多く、蒐集範囲も多岐にわたつてゐる。なかには「安田氏分」「原田氏分」「佐野氏分」などと、亀島氏の仲介で他の古銭商・蒐集家から購入しているものがあり、特に安田多三郎(秋月堂)からは多くの中国貨幣を入手している。また、同時期の書簡によれば、岡田商店から日本の古金銀や紙幣を購入していることや(表2 No 5〜15)、満州の王璞全との交渉の様子も知られる(表

2 No 16、26)。なお亀島氏の書簡には、入札会への参加や他の古銭商・蒐集家との交渉に関する情報が含まれており(表2 No 27、28、29、30など)、蒐集状況の細部を伝えてくれる。¹³⁾

貨幣関係以外にも昭和八年から十二年にかけて指物師井口氏に注文した古銭収納箱や、瓦経 (No 17)、土塔 (No 179)、鈴 (No 110、111、112、118、126、138)、硝子玉 (No 116)、根付 (No 81、82、83)、鏝 (No 87)、糸印 (No 152、156、157、158) など亀島氏の取り次ぎで納品されている。

一方、藩札は前田惇のコレクションを譲り受けたと言われるが、昭和九年、亀島氏と佐野英山の仲介により、天野綱次郎から三千円で購入されている分があり、おそらくそれに相当すると思われる (No 100)。ほとんど見られなかった紙幣の購入が、これ以後、劇的に増加することから、前田コレクションの入手が藩札・紙幣蒐集の契機になったことはほぼ間違いないだろう。その後買い増しされたなかには、藩札蒐集家として著名な中島茂吉 (秋月) のほか、荒木豊三郎、藤田満治らの蔵品が含まれると推測される (表2 No 27、29)¹⁵⁾。

以上、領収書を通覧すると、二代幸七のコレクション形成過程は大きく二期に区分することができる。第一は明治末から大正前期までの期間で、貨幣の蒐集とともに、羅振玉や博文堂との交流、内藤湖南ら専門家の助言のもと中国美術コレクションが形成された。第二は、昭和七年頃よりはじまった原田悟朗との交流のなかで、伝董源筆「寒林重汀図」などコレクションを代表する作品が加わった晩年期で、博文堂や小澤溪苔堂から入手した古代青銅器などは梅原末治ら東方文化学院京都研究所 (現京都大学人文科学研究所) の研究者に研究資料として提供された。同時に亀島利哉との交流を中心に、貨幣についてもコレクションの増強が図られた。この間、大正後期から昭和六年頃については、現在のところ

購入の痕跡が窺えない。領収書が失われたか、あるいは何らかの事情で購入がひかえられたか、さらなる調査をおこなう必要がある。

中国美術、貨幣など膨大なコレクションを築いた二代幸七は、昭和十三年一月、六十七歳の生涯を閉じた。亀島利哉による「飛香館黒川翁の長逝を悼む」と題した弔文には、「(上略) 翁資性温厚篤実、夙に古器物古書画を好み收藏極めて多く、造詣亦尋常ならず、特に古銭の趣味に至りては、祖先以来連綿相継ぎ、雅意搜羅、老に至りて熱心衰へず、研究愈深く鑑識愈精に、吾人の仰ぎて師表とする所なりしに、忽ち白玉楼中の人と為られたるは、吾人の痛悼惋惜措く能はざる所なり、嗚呼哀い哉」(『貨幣』一三七、昭和十三年二月) と記されている。

(3) 三代幸七とイク夫人

三代幸七 (一八九三—一九六一、木村福三郎) は明治二十六年に東京の米穀問屋木村家の三男として生まれ、東京高等商業 (現一橋大学) 卒業後、大正六年に二代幸七の長女・イク (一八九五—一九八〇) と結婚して黒川家の人となった。二代は番頭らを見人として経営一切を委譲し、自らは御影の別荘で研究と蒐集に没頭したという。翌年の株式会社化にともない、二十五歳で黒川証券株式会社の取締役社長に就任し、社業ならびに業界の発展に努めた。

一方で、イク夫人とともに二代の遺志を継いで中国古美術、貨幣などのコレクション充実を図ったことがわかる。昭和十五年には、白鶴美術館の蒐集に深く関わった浅野梅吉 (竹石山房) から、「三代証」、「鈎兵」を購入しており (No 211)、他にも数点の購入があったと推測できる。¹⁶⁾ また、赤松麟作「土佐堀川」(目録五—二二五) や岡田三郎助作「古き昔を偲びて」(目録五—二二七)・「編物」(目録五—二二八) など、收藏

する洋画八点は三代による購入として知られ、領収書にも近代絵画が数点確認できる（No.155、212、219）。さらに、横山大観や山下摩起らと親交を持ち、大観が昭和十五年に飛香館を訪ねた時に描いた「飛香館暁色」（目録五―一二四）などが伝わっている。¹⁷イク夫人も若い頃より父親から古美術について勉強するよう命じられており、湖南ら研究者が訪れた際には側でいろいろと教示を受けたと言う。¹⁸刀剣にも強い関心を示して造詣を深め、自身で手入れも行っていた。

夫妻は戦中・戦後の混乱期に、関係の深かった河内の高貴寺へ所蔵品を疎開させるなど、その保護に努めた。昭和二十五年には、コレクションを土地、建物ならびに基本金とともに寄附して黒川古文化研究所を設立し、所蔵品の研究や展示・公開への道を開いた。

おわりに

黒川コレクションの形成過程を、伝来する領収書類の調査を通じてわかった情報をもとに辿ってきた。当コレクションは、蒐集時期の明らかなる多岐にわたる資料が一括保存されている点で貴重であり、入手経路を明確にすることで、その学術的な価値はさらに高まるものと思われる。

明治末から昭和前期の激動の時代にあつて、二代幸七をはじめとする蒐集家の多くは、西欧に流出せんとする古美術を東洋に残すことも意図していた。しかし、現在までその形を保っているコレクションは必ずしも多くなく、加えて歴史的な文物に対する理解や関心も薄くなった世相を踏まえると、これらを取り巻く環境は年々憂うべき状況となつてきている。黒川コレクションも形成から約一世紀が経過し、蒐集自体がすでに歴史の一齣となりつつある。今回の調査は、決して必要以上の顕彰を

企図するものではなく、あくまで冷静に蒐集者の意図を再確認するための作業として行つたつもりである。ただ、資料にもとづいて蒐集意図やその具体的な状況を正確に理解することが、実は収蔵資料の保存や公開、研究にも基盤や活力を与えるとの感を強くしている。

今回紹介した資料には、収蔵する刀剣や瓦に関する領収書がほとんど見出せないなど、残存状況の偏りも考えられる。引き続き分野ごとに詳しい蒐集過程の調査を進め、機会があれば紹介したい。誤りも多いことと思うが、御教示いただければ幸いである。

表2 古美術商からの書簡

No	差出人	宛名	日付	内容
1	中島弁一郎	黒川幸七	(大正)3年5月12日	…このたび不思議にも銅乾元大宝12枚周旋方依頼され候間、早速本日書留小包を以てご送付仕り候間、なにとぞ御査収御一覧の上、よろしくお買上の程願ひ上げ候、…二伸、…父の申すには今まで鉛の乾元大宝はしばしば見た事の有り候へども、今度のごとき乾元大宝銅銭美品揃い12枚1口は、今まで見た事少き由申し居り候故、ちょっと申し置き候…、三伸、父が乾元大宝銅銭12枚1口全部見て手をふるはして驚きし程の珍品に御座候…
2	小澤亀三郎	黒川御主人様	11月17日	…先刻は誠に失礼仕り候、只今帰宅致し、店の者より承はりし処、色々と御取り下され実にありがたく、右の内、銀象眼勺20口につき、時代下るのではないかと御下問ありし由、御説の通り一般にはやはり漢と申し居り候へども、小生は六朝のものとし存じ居り候、次に京都□□氏入札の結果、総体に異常の高価に売れ居り、なぜか小生として合点の参らぬもの有り、高値付表前に同封ご送付申し上げ候間、番号に合はし日録に御転記下されしこと、又ご参考ともなり面白かと存ぜられ候、右の内66番の秦鏡の如きは…、尚、小生明18日山中展観旁々東京に参り候…
3	小澤亀三郎	黒川御主人様	8月21日	…昨日お話の瓦壁持参致し候、この品は初めて見候ものにて、漢以前ずっと古きものかとも思はれ候、河南彰徳府出土品藏物中に有之候、尚、秦鏡は毀ひどく候へども、紋様稀に見る変りし鏡と存じ候、次に昨日代金頂戴仕り候間、平脱花片の方は鏡のめくれにふく銀に鍍金の平脱前の断片と存じ候、
4	安田秋月堂	黒川旦那様	昭和9年11月20日	お尋ねの物品は現今支那地方にても誠に少なく、珍泉と有之候、統和元宝は遼銭の事御案内の難、銅質緒味を帯び、清寧通宝・成雍通宝等と銭質同様の物と有之候、精美品少なく古雅に有之候、時価は金二百七八十円位かと愚考仕り候、又泰和通宝小平等は泰和各銭中の最珍にて、本品は大抵製作精美で有之、銅質紫白色と黄味を帯品と両種有之候、時価金二百円位…目下為替の關係にて支那より輸入の物は騰貴仕り居候、…
5	岡田商店	黒川幸七	昭和9年4月6日	…さて本日、古金銀他左記の物を書留小包にて別送致候処、御照覧の上なにとぞお買上の程願ひ申し上げ候、記、明治13年1円金貨、明治9年同、明治7年同、真文大吉、太閤円歩金、甲州石打一分金、同中安二朱金、中安一朱金、元禄小玉、○保○宝大字小玉、同小字小玉、二ツ宝小玉、真文丁銀、朝鮮20円金貨
6	岡田商店	黒川幸七	昭和9年6月23日	…失礼ながら左記の品別便にてお送り申し上げ候、御高覧の上お買上の程伏して願ひ申し上げ候、四ツ玉十二面大黒丁銀、鎌倉一両銀貨、因幡一丁同切銀、分銅小判金、鶏小判金、永字小玉、花降一分銀、右御案内まで斯くの如くに御座候、
7	岡田商店	黒川幸七	昭和9年9月29日	記、第一銀行1円札、三十七銀行5円札、朝鮮銀行10円札、同5円札、同1円札、メ63円也、
8	岡田商店	黒川幸七	昭和9年11月24日	…例の国立銀行紙幣、左記の如くご送付致し候間、よろしくとお取調べの上、お買上の程伏して願ひ申し上げます、敬具、記、水兵札(三三銀行、三六銀行、五一銀行、六〇銀行、六六銀行、九〇銀行、九二銀行、一一四銀行)、鍛冶屋札(三銀行、三五銀行、三六銀行、四八銀行、五九銀行、七二銀行、八五銀行、一三二銀行、一三九銀行、一四三銀行、一五二銀行)、計金285円也、以上、
9	岡田商店	黒川幸七	昭和10年1月2日	…新春の初荷と致しまして左記の品別送致しました故、なにとぞよろしくの御買上の程願ひ申し上げます…250円也盛岡の銀板1枚、15円也百十八国立銀行五円札1枚メ

No	差出人	宛名	日付	内容
10	岡田商店	黒川幸七	昭和10年1月5日	…先般ご来店お買い上げくだされ候寛永背十三は「寛永堂」の作品ならんとの説あり、誠に申し訳之なく深々お詫び申し上げ候、お買い上げ代金200円也本便に同封ご返金申し上げ候間、あしからず御査収の上、次回御来店の節御返戻下さる様お願ひ申し上げ候…
11	岡田商店	黒川幸七	昭和10年2月27日	…今般左記の品同封送付申し上げ置き候間、貴着の上はなにとぞよろしくお取計らひ下さらん事を伏してお願ひ申し上げ候、敬具、記、二百円紙幣、鍛冶屋札64、同65、水兵札125、メ345円也、
12	岡田商店	黒川幸七	昭和10年6月24日	…只今国立銀行札を左記の通り別送致しましたから、よろしくお買い上げの程お願ひ致します、記、蒙古一円札（第八銀行）、水兵一円札（第三十五、第五十八、第八十二、第八十八、第百五十三銀行）、鍛冶屋五円札（第三十一、第三十六、第四十、第四十七、第五十四、第六十九銀行）、メ185円也、以上
13	岡田商店	黒川幸七	昭和11年5月10日	…左記銀行札同封致して置きますから、よろしくお買い上げの程お願ひ申し上げます、記、蒙古一円札（十八国立）、鍛冶屋札（六十三国立）、水兵札（六十一、七十六、百二十八国立）、メ、尚同封目録の内にご希望品がございましたら、1品でも結構でございますからご用命の程をお願ひ申し上げます…
14	岡田商店	黒川幸七	昭和12年1月29日	今般「ヒルモ金」の大判入手仕り候に付き、別便にてご尊覧に供したくご送付申し上げ候、…目方は43匁余有之、「アザハヒ」も申し分無之、確かに大稀品と確信致し居り候…
15	岡田商店	黒川幸七	昭和12年9月9日	本日はせっかくお越しくございましたのに不在で失礼致しました、その節お話の近代銭、自分としてはお安く申し上げておりますつもりでございますが、時節柄でございますから、最決着左記値段でお買い上げ願ひたく存じます、慶応通宝（385円）、百禄永昌（250円）、二享宝永（140円）、宝永母銭（270円）、白銅銭（125円）、メ…
16	王璞全	黒川幸七	11月5日	…さて、唐突ながら古泉壺号試送致し候、同泉は泰和の小平銭にして珍、且つ美、実価金300円也、ご購入下されまじきかな、統和元宝も有之…
17	王璞全	黒川幸七様	11月23日	去る本月5日付書留郵便を以て、小平泰和銭1枚試送致し置き、既に2週間余りなり、いまだお返事に接せず…なにとぞこの書面到着次第ちょっと御返事下されたく願ひ上げ候…
18	王生(王璞全)	黒川幸七様	12月13日	ご書面拝見仕り候、統和は早速別便にてお送り申し上げ候、御高覧下されたく候、同銭は絶無の珍品にして、キズ有る替りに新出土の美銭なり、書体も類例なし、価格は2品一緒にて金500円にて宜しく…
19	王璞全	黒川幸七	昭和11年1月8日	先日の拓本の文安布は金350円です…現今の古泉相場は大珍は千円にて2品あるいは1品しか買へません、それが事実です、対読元符、至元背玉、白泰和、行書乾祐、西夏天盛、文安布の6品の如きは、稀世の珍品にして、至和重、阜昌重篆の2品も古来より有名な珍品、とにかく何れも珍しいものにて、8品にて2千円の価値はあると思われま…
20	王璞全	黒川幸七様	不明	1月30日付のお手紙は拝見仕り候、御申越の値段ではご希望に及びたく、なにとぞ悪しからず…なにとぞ7品の内、是非とも御入用の分だけお取り下され…金票千円は銀の7百余円に当る、ほとんど元符1枚の代価なり、
21	王生(王璞全)	黒川様	不明	お返事は拝見仕り候、今回の値段も少からざる懸隔あり、御割受致し難し、白銅折二泰和と至元背玉は400、咸玄、政和、統和、永安の1100はいずれも減価を重ねた最低の値段です、…元符、文安布は貴下すでに機会を逸した、

No	差出人	宛名	日付	内容
22	王生(王璞全)	黒川幸七様	不明	…乾道元宝背正、阜昌重宝当三、至和重宝折二、右3品にて金300円にて割譲致したく、御購入下されたく候、敬具、仲 貴下、書画も御嗜好に候や、
23	王璞全	黒川様	不明	さて、本日別便にて古銭4枚試送致し、御入用のもの無之候哉、咸通玄宝唐銭500円、政和通宝当三母銭350円、統和元宝純遼銭風の小字300円、永安一百銅銭100円、…
24	王生(王璞全)	黒川様	不明	お返事拝見仕り、銭価ご不明のためにかくの如き値段をお付けになって、小生は誠に窮地に陥り、又も去年の旧轍を踏まれた、しかし今回に限って小生を信用して4枚の内1品でも宜しいから御購入を願ひたい…もし1品お買い入れなら、咸通玄宝を除くほか、他の3品は特に2割引にしておきます、
25	王生(王璞全)	黒川様	不明	別便書留2通にて古泉13枚試送致し置き候、御入用の分を御振り下されたし、…元符通宝高価の様ですが決して然らず、同泉は現存12品のみ、もちろん東京の各家にはなく泉貨泉譜に楷書の分を掲載せるが隷書はなく、無論東京会員中に所持なく、泰和通宝の紫白銅精美品は普通品と全然違ひ、大定通宝ニに似たる異製品、頗る珍らしく、至元通宝背玉も前記2品と共に絶無の珍なり、なにとぞ御熟覧下されたく候、
26	王生(王璞全)	黒川様	不明	先日試送古泉13品すでにご高覧の事とお察し申し上げ候、…拓本の如き古文銭古通にも掲載居らず、頗る珍らしき古銭にて、ご入用ならば至急ご一報下されたし、この古泉は文安一金化と読むように候、
27	亀島利哉	黒川御主人様	1月10日	…旧冬拝話仕り候藤田満治氏の藩札につき、1(10円以上)・2(5円以上)・3(2円以上)(1円以下記入致さず候)、以上価は控え目に仕り、総数4千枚以上の内、1・2・3の数1250枚程に相成り申し候、…種々取合せ百枚程借り受け申し居り候、それに目録も御座候間、ご下命の節は直に貴覧に供奉り上げ候…
28	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)4月3日	…お任せに預り申し候藩札、昨日京都へ赴き候際、決着取極め申し候居る節、銀行札手許の分だけ、別紙の通り控持帰り候間、お引合せ置きお願い申し上げたく、その上の事に引合ひ申すべく候…尚小生今夜行にて上京、古銭の入札会に出席その他、所用にて何か入手仕り候節は、帰阪次第お報せ申し上げべく候条…
29	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)4月12日	…昨日、京都への所用を兼ね伏見荒木氏へ参り、国立札引き合せ申し候結果、蒙古分1枚16円、水兵分1枚11円、以上、その価格ならばよろしく候と申し居り候、…今回お買い上げ給わり候藩札中、雲州広瀬為替社は稀世の珍品と荒木氏よりも聞き及び申し候、…90円2口即ち万年6饒益1、及び天正銀銭その他の口、御目に御掛け申せざる哉…
30	亀島利哉	山村御令室様	4月14日	…藤田家入札の古金銀も最早御承知と存じ申し候、28100円にて落札を見し好況に有之候、…いづれ委細の義は拝眉の上申し上げべく候、さて先日来より伏見所蔵の藩札の内より重なるもののみ選択致し、…本日只今より伏見へ参り、割安に話の持出来様尽力仕るべく候間、その際はお買い上げ賜わりたくお願い申し上げます候、さすれば関西方面の大部所蔵家の珍品は蒐集せらるる事と相成り申し候、中にも伏見は何と申しても他の諸氏に優り居り候…
32	亀島利哉	山村御令室様	4月16日	…昨日左記国立銀行札入掌仕り候…百十銀行周防山口、三十三銀行東京稍不美、六十銀行東京、二十三銀行豊後大分、百五十二銀行琉球沖繩、以上5種、右のほか西班牙国白金貨珍品並に安田氏より支那銭7品持参有之候…

No	差出人	宛名	日付	内容
33	亀島利哉	山村御令室様	4月29日	…この程御下命下され候国立札4枚入手致し置き候、且つ本日左記、水兵一円第三十銀行東京、カジヤ五円第十一銀行名古屋、以上につき預かり居り候…尚、安田氏より高昌吉利に就て別紙の如き返信有之、現品は手許に御座候間…尚々、お話し申し上げ候古銭類及び外に古金即ち各国判金何れも小判金類利口に入手仕り候と存じ候もの有之…
34	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)5月30日	先日拝話申し上げ候善光小判、このほど入手仕り候、…尚昨日今回の入札品にて京へ依頼致し置き候もの、若干入手仕り候内に都介野出和同1枚有之候…
35	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)6月19日	…若干ながら一口にて入手、中には珍品数点あり、安田佐野両氏の為に都合宜しく話出来候次第、…ほかに藤原鏡毛彫のものあり…
36	亀島利哉	山村御令室様	7月8日	拝啓、昨日は結構なる御品々毎度拝領のみ仕り…ご通知申し上げ候二水陸平大字、本日種々引き合せの末小生買入れ候…尚、饒益及び離郭富寿等共に格安に買入れ品も有之候…
37	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)8月16日	…昨夕、江野より来る19日朝、御影ご別邸へ井口氏へお預け相成り居り候古銭箱、持参仕るべく候ご下命の趣き、まさに聞き及び承知仕り候、…これにてご注文遊ばされ候箱は全部出来候、当日は持参の都合もあり、井口同道にて参堂仕り候、…尚このほど左記品あり、一円水兵札121銀行大阪10円、五円カジヤ札122銀行伊勢桑名15円、撰津能勢郡藩札2種7円、赤松小判金100円、白銅天保11円、水戸天保17円、以上のほかに安田氏分いささかあり…
38	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)8月24日	…この間はお別邸へ参堂仕り候、その際は何彼とお引廻し下され候居る上、種々ご馳走に預り申し、千万忝奉拝謝上げ候、さて本日左記品に接し申し候…津島小判金、饒益鉄錯直立する品、先般お願い申し候えども、希少品ゆえ御奮発願いたきものに候、元享利貞銀銅取合せ4種、巴一分金、先日取り報せ候品と同一、且つ造幣蔵のものとも勿論同じ品に有之候…
39	亀島利哉	山村御令室様	9月8日	…この間御高覧賜り候品の選択致し、且つ先般來御高覧下され候品のその後選択入手仕り候分と合せて、本日別紙の通り現品小包便を以てお送り申し上げ候…
40	亀島利哉	山村御令室様	9月12日	…本日旧古銭家の画銭の類1口偶然入手仕り候に就ては、その内より選択致し計35品、別紙の通り現品小包便を以てご送付申し上げ候、貴着の上はなにとぞご高覧の上、精々のお買上を賜はり候へば幸甚の至りに存じ奉り候…
41	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)11月17日	…明後19日、山田原田両氏と共に10時過ぎ頃と相成り申すべく、御影ご別邸へ参堂仕りべく候、記念切手画ハガキ貼附分、ご高覧に供し申すべく…尚左記品とにもご高覧に入れ申すべく候…善光寺銀錢、長命富貴背鶴亀樹ト壘分、草喰野駒異品にて美しきもの珍品、橋弁慶厚銭大形(昭和錢譜掲図原品珍品)、支那厭勝錢十二支図大形美品、カンボチャ銀2種、玉環幣、同少し大形品、以上、尚々藩札も若干御座候えども、明後日迄には自然出来かね候哉…
42	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)12月10日	…本日は御旦那様ご尊來下され候ところ…欠礼仕り恐縮のほか無く…、お買上げを賜わり候代金頂戴仕り候領収書、別紙の通りに御座候…お持帰り遊ばされ候品々の明細書も同封仕り置き候…尚ご下命下され候瓦の件、早速備前へ送付方申し送り候…

No	差出人	宛名	日付	内容
43	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)12月16日	…この間参堂仕り候際は、毎々各々へ結構なるお品々 拝領仕り、なんとも恐縮のほか無く、千万忝なく拝謝奉 り上げ候、さて、瓦小形分のみ12個備前より到着仕り候、 即ち左記、経瓦片（筑前筑紫郡水城村発見1個、伊勢度 会郡天神山発見2個、伯耆大日寺発見5個、播磨在田村 発見特に小片1個、阿波板野郡犬伏村発見1個、京都泉 湧寺発見1個、美作勝田郡間山発見1個）計12個、他の 大形は追々持参申し来たり候、尚、今回京都倶楽部へ古 金入札品有り、明17日現品拙宅へ午後1時すぎ頃持参致 しくれる事に相成り居り候、山田氏も西原商店員来訪の 際居合せられ、参考迄に現品実見致し置きたしとの希望 有り…ご都合お差障り御座なき候へば、ご尊来遊ばさ れ候たく存じ上げ奉り候…
44	亀島利哉	山村御令室様	(昭和11年)12月30日	…昨日はお珍しき何よりの好物品頂戴仕り…さて来春 上旬中に備前へ赴き、ご下命の土版塔選択の上持帰り、 尊覧に供し上げ奉り申すべく候、目下春早々面談致した き旨、水原氏へ照会致し居り候、且つ昨日お持帰り下さ れ候品、…播州美囊郡吉川村法光寺鎌倉期土版塔1個、 伯耆太千寺鎌倉期土版塔16個、作州久米郡福渡町法楽寺 町藤原期土版塔60個、大和橘寺奈良朝期埴仏2片、大和 法隆寺飛鳥朝期埴仏3片、古代玉取合せ5個、富札取合 95枚、右様ならびに藩札全部整理出来上り候へども、こ の分いよいよ余日これ無き候ため…
45	亀島利哉	山村御令室様	(昭和12年)2月23日	…冨二新円肩布引き合せ申し候結果、45.00にて取極め 候…、且つ安南銭画隆之室35.00珍品ものに有之預か り、別紙に御座候…お買上げ賜わり候貨幣史5冊持参 仕らせ候…尚藩札の値段書ならびに領収書共同封在中 し候…
46	亀島利哉	黒川御奥様	12月10日	…かねてご通知申し上げ居り候品々の中に、『秘庫器 録』と申し候古銭本1冊有り、…奥平氏来訪相成り、 何気なく見せ候ところ、氏は『東亜銭志』を著述上、態々 金沢文庫まで赴き候も、今は文庫には無く、…あるい は金沢文庫にありしものかの由に候、恐らく古銭書とし ての大珍本なりとの話有り候、[金沢文庫]の書印御座 候、…
47	亀島利哉	黒川御奥様	12月23日	…江野の義、平素は何彼とご厄介様に相成り居り候、… 今回金判類4品、その中に会津物なれども、50匁余の東 山大判純金量にても43匁あるもの、将来珍しく相成り 候、…即ち合計18品にて…、打出へ御本邸の御新築も めでたく遊ばされ、目下ご移転中の御由に候へば…
48	亀島利哉	黒川御奥様	11月20日	…江野栄蔵、平素何彼とご厄介様に相成り申し居り候 段、忝なく拝謝奉り上げ候、さて、このほど金銀の類を 主とせるもの70品余入手仕り候、中にも小判金20枚は背 印替り、即ち金座役人の人名調べ上参考資料とも相成り 申し候…その他白金の獲國小判并に近代銭等種々の現 品有之、総代金3千円に御座候、なにとぞお買上の程…
49	亀島利哉	黒川御奥様	7月18日	…去る4月早々外国貨幣を主とせる纏りたる一口物全 部入手仕り候に就ては、数多き中より希少の優秀品の み選択致し、貴覧に供し奉りたく…現品誠に勝手ながら 御ことづけ仕り候次第…最早現今にては今回の如き 品々は外国の方がかえって品薄の蒐集難に候へば、将来 は一層むつかしき事と存ぜられ候、大部の品は外国の商 人よりも蒐集家より入手の吟味品のみを御座候へば、御 所蔵品の中へお差し加へ給りたく願はしく存じ奉り候、 外国貨幣の所有者として日本一の大家たる事は決して過 言には無之候へば、なにとぞ奮発お買上の程を切に懇 願奉り上げ候…

No	差出人	宛名	日付	内容
50	亀島利哉	黒川御奥様	昭和13年12月21日	…このほど天正長大判の類品中最長形式と存ぜられ候もの、及び次の字切銀、造幣局所蔵の品よりも遙かに上位のもの等、合計4点入手仕り候に就ては…現品持参の上委細申し上げるべく候、銀物の如きは同好者の激賞すべき大珍品に御座候間、なにとぞお買上げの程…
51	亀島利哉	黒川御奥様	昭和16年9月13日	…このほどは江野へ御会社様の株券たくさんご加増下され候趣き、…さて、今回聊かながら外国即ち古代羅馬金貨及び古銭書8冊本2口、并に1冊本総代価180円程度のもの入手致し候、前回通知品とも、何れも美品珍品類に御座候…御意に叶ひ候もののみお買上げ下され候へば結構に存じ奉り候、旁々ほかに甲州大判金ご所蔵品とは多少異と存じ候もの、并に朝鮮馬幣と唱へ居り候銅質なれども鉦金の如く見へて大形の立派なるもの5種揃い…とにかく拓本は手許に御座候に付き、御拝願を得候節は委細申し上ぐべく候、尚、明後15日近江国より(天智天皇時代にあり申候崇福寺の旧跡地)発掘せられ候無文銀銭の鑑定に、滋賀県庁へ山田氏と共に急に赴く事と相成り候、実見の上はご参考までに拝話申し上げるべく候事もこれ有るべしと存じ申し候…
52	亀島利哉	黒川御奥様	昭和16年9月29日	…先夜持参申し上げ候品々の残品、このほど計算得出来様に相成り申し候に、就ては精々減価を申し上げお買上げ給はりたく…、さて拝話申し上げ候拓本の口、持主の事情上、今回現品入手致し候事と相成り、しかも馬幣は割高に見積り居り候ため、尤も好都合に金の物のみ格安に調談致し候心組に御座候、何れも大珍品類にてウブなるものに候、これまたまもなくご高覧に供し奉り上げたく存じ申し候…
53	亀島利哉	黒川御奥様	昭和16年10月5日	…今回お買上げ給はり候別紙同封在中候代金、お言葉に甘へ申し、明後七日即ち火曜日に御会社へ頂戴に参堂仕るべく候…
54	亀島利哉	黒川御奥様	(昭和18年)1月19日	…旧冬18品にて1950円也ご報知申し上げ候その内に含まれ居り候東正大判(50匁余の品)会津作と申し上げ候、このほど前品持者と面談の際、会津のものには無き由を申し候、かなりの時代も有り、正品とせば大珍品、安田氏より久々にて3品にて145円のもの話有り…

凡例

- ・黒川古文化研究所に伝わる古美術商からの書簡のうち、資料性があると判断したものを記載した。
- ・「差出人」「宛名」「日付」の順で優先して並べた。
- ・「日付」欄のうち、()で示した部分は現資料には記載が無く、内容より推定した。
- ・書簡の内容は原文から重要な箇所を抜き出し、適宜読みやすいように漢字を平仮名に換え、送り仮名を加えた。

註

- (1) 拙稿「資料紹介」二代黒川幸七に関する書簡(『古文化研究』七、黒川古文化研究所、二〇〇八年)。
- (2) 江野英三「黒川家三代のことも」(黒川古文化研究所、一九八七年)。以下、特に断らない限り、黒川家についての記述はこの刊行物による。
- (3) 山中吉兵衛は、大阪の茶道具商・山中家(簗堂、山中商店)の三代目で、二代吉兵衛の長男。天満に店舗を構えたため「天山(天山中)」と称される。次男・吉郎兵衛は北浜の角に店があったため「角山(角山中)」、義弟・與七は高麗橋一丁目にいたため「高山(高山中)」と称した。特に吉郎兵衛は当時の大茶人らと交際・取引をおこない、主要な入札では札元として活躍し、春海藤次郎、戸田弥七とともに「大阪道具界の三傑」と呼ばれた。明治二十七年には、吉兵衛の娘婿定次郎らが渡米してニューヨークに支店を開き、以後ボストン、シカゴ、ロンドン、北京に出店するなど積極的に海外進出を行った。山中商会については、桑原住雄「世界一の東洋古美術商 山中商会盛衰記」(『芸術新潮』一九六七年一月号)、富田昇「流転清朝秘宝」(日本放送出版協会、二〇〇二年)、山本真紗子「美術商山中商会―海外進出以前の活動をめぐって」(『Core Ethics』四、二〇〇八年)を参照。
- (4) 「点数帳」に記載される約二百点の掛け軸のうち、二十五点が「前々ヨリ所有」、三十四点には購入先の記載が見られない。他の道具商からは一〜三点ずつにとどまる。屏風の項目には記載がなく、共に伝わる「諸道具点数帳」も書画を七点記載するのみで、中途で蔵品のリストアップをやめている。これらの蔵品帳に関する精細な紹介、考察は今後の課題としたい。
- (5) 不動産購入資料によれば、黒川家は明治四十四年までに北久太郎町三丁目に計五一七坪を所有するまでになり、他に伏見町二丁目、恵比寿町一丁目、今宮新家東裏、安土町三丁目、上本町八丁目、西区靱北通二丁目、天王寺小宮町に土地を購入し、全所有地は約三三〇〇坪に達した。森泰博「明治後期の黒川幸七商店」(『くろかわ』二三、黒川証券株式会社、一九七四年)。
- (6) 杉本欣久「館蔵品研究」『鯉図屏風』と画家・渡辺南岳について(『古文化研究』七、黒川古文化研究所、二〇〇八年)では購入時期を確定していないが、本調査により明治二十五年十一月に六十円にて購入したことが判明する。さらに、No 8に「南岳鯉屏風仕立代箱共」とみえ、購入時に仕立て直しが行われたとわかる。
- (7) 黒川家の近世絵画コレクションについては、冷泉為人「黒川家の日本絵画」(『飛香館清賞 黒川古文化研究所蔵品図録 一 日本絵画』、黒川古文化研究所、一九九二年)参照。なお明治二十四年に結成された日本美術協会大阪支会の「奨励会員名簿」に黒川幸七の名が見え(『特別展 なにわ人物誌 没後一〇〇年 最後の粹人 平瀬露香』展図録、大阪歴史博物館、二〇〇八年)、初代の美術に対する意識を考える上で興味深い。
- (8) 高橋義雄「近世道具移動史」(慶文堂書店、一九二九年、有明書房より一九九〇年に再販)、東京美術倶楽部百年史編纂委員会編「美術商の百年 東京美術倶楽部百年史」(株式会社東京美術倶楽部・東京美術商協同組合、二〇〇六年)。
- (9) 中国五代の書家・王羲之にちなんで、大正二年四月に東京と京都で開催された。京都では、府立図書館にて四月十二、十三日に展覧会が行われ、王羲之に関する古拓や名家の臨書などの逸品が数多く出陳された。詳しくは、須羽源一「大正癸丑の京都蘭亭会について」(『書論』三、一九七三年)、『昭和癸丑蘭亭展図録』(社団法人日本書芸院、一九七三年)参照。
- (10) 拙稿註1論文において紹介した昭和七年九月十一日付原田庄左衛門書簡より、この頃から悟朗氏との交流が始まったことがわかる。原田悟朗については、鶴田武良「原田悟朗氏聞書 大正〓昭和初期における中国画コレクションの成立」(『中国天津市芸術博物館秘蔵 中国明清名画展』図録、財団法人日中友好会館、一九九二年)参照。
- (11) その他、『古銭』誌に見える黒川コレクション関係の記事を掲げておく。下間寅之助「名物銭の話」
滋賀県大津市寺町現住の淳風堂松井時三氏は皇朝銭のみに没頭して研究を続けて居る。(中略) 或る悪周旋人のために意外の損失を受けて永々く愛蔵したる長頭永の隆平永宝銭と前記の賢貴富寿神宝銭と残り、惜しくも原田元宝堂に割愛したのが大正三年の春であった。其時に長頭永銭は当地の黒川飛香館に行きて、元宝堂は前記の精美富寿銭を愛蔵せられたのである。

略) 無理に御頼みして五個を譲ってもらった。(中略) 廿四年二月に越後の原松堂が是非一品割譲せよと其時に金五円で譲り渡(此長年大宝銭は松堂より伊勢山田三宅白水堂に行き、更らに当地黒川飛香館の藏品となる)(下略)

〔古銭〕六〇七、大正十一年)

(上略) この刎和同開珍銭は(中略) 岡山県水島発見のものは是も当地黒川飛香館の所藏品となつて居り升。(下略)

〔古銭〕七〇一、大正十二年)

下間寅之助「巖島に遊ぶの記」

(上略) 神崎の北に伊丹と云ふ処がある。此処に傲霜堂と言ふ古泉大家が以前にあつた。古銭界では有名な人であつて此人の孔方図鑑は当時の儒者某と云ふ人が箱書きをして居る其品が京都の小倉風仙堂に行き更らに山田市の三宅白水堂に転じ再転して当地の飛香館の藏品となつた(下略)

〔古銭〕七〇六、大正十二年)

(12) その後、同誌には「近來古金銀大流行の爲め当地黒川飛香館所蔵の古金銀を拝見したく申込める人少からざるやに聞けり。不日希望者の望みに応ぜらる、由」〔古銭〕三〇七、大正八年)とある。

(13) 亀島氏からの書簡の多くは、「山村御令室」宛あるいは「黒川御奥様」宛となつている。このうち「黒川御奥様」は、封筒の住所より二代幸七の息女イクであると考えられる。イクは結婚後天王寺小宮町に住していたことから、亀島氏の住所と近く、当時御影で生活を送る幸七との仲介をしていたことが推測される。「山村御令室」もイクを指すと推察するが、「山村」と呼称されている理由については現在のところ不明である。

(14) 郡司勇夫「前田コレクシヨン私見」〔月刊ボナンザ〕八一四、一九七二年)、「大阪の文化人 黒川いく子さん」〔大阪春秋〕八、一九七五年)。前田惇は大阪府高石出身で、自ら藩札狂と名乗り、全国を股にかけて藩札の蒐集行脚を行った。コレクシヨンは安田善次郎に売却され、その後、東京大学経済学部に寄贈された。

(15) 作道洋太郎「生涯をつらぬく藩札の研究」〔ボナンザ〕八一四、一九七二年)によると、四国の奥平正臣(古札庵)からの購入もあつたと言われる。同氏『東亜銭誌』(一九三八年)所載貨幣の現品が数点収蔵されてい

(16) 昭和十三年六月二十二日、黒川福三郎(三代幸七)名義で重要美術品に指定された「嵌玉怪獸形黄金帶鉤」(伝河南省洛陽金村古墓出土)は、梅原末治(編)『洛陽金村古墓聚英』(小林写真製版所出版部、一九三七年)図版九七では浅野梅吉所蔵となつている。これと同じ特徴を持つ箱(二重箱で、内箱の紐は朱色)に納められた品が数点収蔵されており、すべて同氏からの購入と思われる。

(17) 大観とは二代生前より交友があり、三代夫妻との写真や書簡が伝わる。また、山下摩起の作品が六枚収蔵されている(『飛香館清賞 黒川古文化研究所藏品図録 一 日本絵画』作品番号一三六〇一四一)。

(18) 「大阪の文化人 黒川いく子さん」〔大阪春秋〕八、一九七五年)。

〔付記〕

前号一一三頁にて紹介した羅振玉「呈飛香館主人詩」(大正八年)について、『貞松老人遺稿乙集』「貞松老人外集」巻四に「題小象留別東友」として同様の詩が載録されていることがわかり、釈文について異同があつたので次の通り訂正しておく。

八年浮海鬢成霜 魂夢依然恋首陽
他日盲翁伝話柄 小臣有慕傍 先皇